

みんなで育てよう!

学社連携・学社融合
推進事業

ガッツ★ひえぶっこ

GUTS 日吉津っ子

報 告 書



日吉津村学社連携推進事業研究会

はじめに

「GUTS^{ガ ッ ツ} 日吉津っ子」をめざして

白砂青松のうなばらに喜々として戯れる子どもたちの姿を見ると心が和みます。一転して子どもたちの社会的環境を想うとき、現実には誠に厳しいものがあります。

健やかな子どもたちを育てることは、私たち大人の共通の願いであり、責任であります。

青少年の健全育成という言葉が随分と使われてきましたし、多くの事業が展開されました。しかし、その意味も語感も広範囲で漠然としていたと思います。

今、私たちは、平成 19 年 2 月 12 日に開催いたしました「日吉津村生涯学習むらづくり推進大会」において、日吉津の子どもたちをみんなで育てる目標を明確に決めました。

「GUTS 日吉津っ子」と！！

G＝がんばる子ども

U＝ゆったり育つ子ども

T＝たくましい子ども

鳥取県で学校教育と社会教育の連携・融合、略して「学社連携・学社融合推進事業」と名付けて行政的に取り組んだのは私たち日吉津村が初めてです。

平成 16 年 4 月、鳥取県教育委員会西部教育局から指定を受けたのがスタートでした。

3 年間、期間を限定して、村の宝物である子どもたちを育てる目標を明確に定めようとした事業でありました。

日吉津村学社連携推進事業研究会を起ち上げ、島根大学教育学部長高岡信也先生にスーパーバイザーをお願いし、西部教育局・日吉津小学校・小学校 PTA・児童館・社会福祉協議会・青少年育成推進指導委員・中央公民館・日吉津村教育委員会のメンバーにお世話になりました。

プログラム開発会議、子育てフォーラム in ひえづ、日吉津村生涯学習むらづくり推進大会の決議をいただいて「GUTS 日吉津っ子」と育成目標が具体的になりました。

日吉津村は、県内唯一の「村」であります。県内で人口増加率が最も高い自治体です。

秀峰大山を仰ぎ見て、鳥取県西部の母なる日野川、広々とした白砂青松のうなばら、この素晴らしい自然環境の中で、みんなの力を合わせて「GUTS 日吉津っ子」を育てたいものがあります。

日吉津村民の皆様、日吉津っ子に係わる団体、サークル、グループの皆さん、村民一人ひとりが「GUTS 日吉津っ子」を育てることで、夢をはぐくみ、生きがいづくりをすすめて、「いきいきむら日吉津」を目指しましょう。

家庭・学校・地域のそれぞれが役割を分担し、協働していくことが学社連携・融合だと思います。学社連携・融合が、学校教育の充実、わが村の活性化をもたらすと確信いたします。

「GUTS 日吉津っ子」取り組みの報告書を手を、子どもたちのために、あなたのお力を貸して下さい。

今日までご指導とお力添えをいただきました関係者の方々に心から感謝申し上げます。

平成 19 年 3 月

日吉津村教育委員会
教育長 遠藤 量

家庭・地域・学校が協働する子育てを実現するために

－「GUTS 日吉津っ子」を合い言葉に！－

島根大学教育学部長 高岡 信也

鳥取県教育委員会の研究指定に端を発した、日吉津村の子育てプランづくり（「学社連携・学社融合推進事業」）の三年間がまたたく間に過ぎました。平成16年から開始されたこの事業に、スーパー・バイザーというご指名を受けて以来、日吉津村の皆さんとご一緒できたこと、小学校や児童館、そして社会教育に携わる方々と同じ目的に向かって何度となく話し合いの機会をもてたことに、まず感謝の意を表します。

この三年間は、私自身の大学での仕事に大きな変化が生じた時期でもあり、せっかく作っていただいた会合にもうかがえなかった反省もあります。しかし、教育、特に社会教育や生涯学習を専門とする立場からは、日吉津村というすばらしいフィールドを与えていただき、具体的でかつ実践的なテーマを長期にわたって追い続ける機会はなかなか得がたいものでした。島根大学の社会教育ゼミの学生たちも、2年間にわたって日吉津の子どもたちと様々な活動に取り組み、その成果を卒業論文に仕上げました。こうした体験は、彼らにとってはまさにそこに生きる子どもたち、子育てに取り組む地域と家庭を直接見せていただく絶好の機会になりました。彼らの卒業研究論文は、共同研究として、学科内でも高い評価を受け、そのせいかどうかは別にして、全員就職も決まり、さらに大学院で研究を続けるものも現れました。

今回の事業の目標は、「日吉津村の子育てと教育の環境をどうつくるか」でした。しかもそのことを考える際に、「学社連携・融合」という視点を忘れないこと、すなわち、家庭、地域、学校が協働して子どもたちの育ちを支えること、学校任せの教育から早く離脱すること、教育力を失ったと危惧されている地域を再生させること等が話題となりました。私は、その課題を「子育てのまちづくり」と表現しました。何度か機会をいただいた講演会で、学校の研修の場で、そして「プログラム開発会議」の協議の場で、お題目のごとくに唱えました。日吉津の皆さんもまた、子育てとまちづくりをつなぐ発想に賛同いただいたと思います。「GUTS 日吉津っ子」というキャッチ・コピーは、そのような検討の中から生まれました。

「G＝がんばる子ども」、「U＝ゆったり育つ子ども」そして「T＝たくましい子ども」は、単なる語呂合わせのようですが、おとな達の思いをうまく表現しています。私達は、わが

子であれよその子であれ、一様に元気でたくましい子どもを育てたいと願っています。それが本音なのです。

かつて、高度経済成長期には、急激な高学歴社会が生まれ、日本人の多くが、「わが子を大学へ、そしてできれば一流大学に通わせたい」と考える社会をつくりました。そうすることが子どもの将来を約束することであり、より豊かな暮らしを保障することだという幻想を抱いていました。しかしすでに私達は、急激な社会の変化に直面して、学歴は子どもたちの未来を決して約束しないことを知っています。大切なことは、子どもたちの中に、自ら学ぶ力をしっかり育み、彼ら自身の人生を自ら切り開いていくたくましい生活力を育てることです。学歴に依存する社会とは、子どもたち一人ひとりの可能性を摘み取る、子どもたちにとって、きわめて迷惑な社会であることを知っています。未来の子育てがめざすべきは、受験のための学力や偏差値に一喜一憂せず、しっかりした基礎学力を備え、困難に立ち向かう気力とたくましい生活力を持つ子どもを、地域をあげて育てることです。

日吉津村は、平成の大合併を「独立」という方針を立てて乗り切った希有の地域です。その気概を、私はすばらしいものと感じています。地方分権の時代の旗手として、困難に打ち勝ち、真に住みよい地域をつくるのが日吉津の課題だと思います。その日吉津村の未来を担う子どもたちの教育世界を皆さんで創って欲しいと思います。「GUTS 日吉津っ子」を皆さんの合い言葉として。

目 次

はじめに

「GUTS^{ガ ッ ツ} 日吉津っ子」を目指して
家庭、地域、学校が協働する子育てを実現するために

I 学社連携・学社融合推進事業研究構想について

1. 研究主題	1
2. 主題設定の理由	1
3. 研究目標	2
4. 研究仮説	3
5. 研究内容	4
6. 組織	5

II 「GUTS^{ガ ッ ツ} 日吉津っ子」が目指す子どものイメージ

1. 「G」・「U」・「T」の子どものイメージ	6
2. 子どものイメージを実現するおとなの取り組み	8

III 成果と展望

1. 成果と展望	10
2. 「GUTS ^{ガ ッ ツ} 日吉津っ子」育成推奨事業について	11

IV 今後の展開 28

V Q & A 30

おわりに

資料集 33

I 学社連携・学社融合推進事業研究構想について

1. 研究主題

みんなで育てる「GUTS 日吉津っ子」
～いきいきむら日吉津を目指して～

日吉津村を誰もが誇りに思い、「子どもは地域の宝物」として、家庭・学校・地域が一体となった子育てを目指す。子育てにかかわり、家庭・学校・地域が自立と協働の視点で取り組みを見直す(再構築)ことによって、地域の人々がいきいきとする日吉津村を目指す。

2. 主題設定の理由

■学社連携・学社融合とは

学社連携・学社融合の目指すところは、家庭・学校・地域がそれぞれの役割（自立）を果たしていくことである。しかしながら、これまでの家庭・地域連携の主体は、学校にあった。学校の都合に合わせた連携、学校主導での家庭・地域連携に留まっていなかっただろうか。さらにいえば、地域連携の場が生涯学習としての意味づけをもち、取り組んだ側の充実感や達成感、役立ち感にまで高まっていただろうか。今求められている学社融合とは、連携し合う双方が共に生かし生かされ、より高められた価値を共有できる連携の在り方を探ることである。学社連携・学社融合が、学校教育の充実や地域社会の活性化をもたらし、みんなの生きがいがいづくりにつながる。

■家庭・学校・地域に求められていること

〈家庭の自立〉

子どもが発達の段階に応じて身に付けたい力には、例えば、「自分のことが自分でできる子ども」「感性豊かで思いやりのある子ども」「社会生活のルールやマナーを守る子ども」などが挙げられよう。

しかしながら、今の家庭の教育力は低下しており、PTAや地域が一体となって「親育ち」を支援することが必要となっている。家庭は子どもの自立を育てる基盤であることへの自覚と責任を持つこと、地域や学校は、家庭や子どもの自立を支援していく体制作りをすることが重要である。

〈学校の自立と協働〉

●求められる学校の姿

今学校に求められる姿は、信頼され、安心して子どもを託すことのできる学校である。保護者・地域と協働しながら、子どもたちの確かな学力・豊かな心とたくましい体力の

向上に取り組む学校が求められている。

学校は、より一層家庭や地域と連携しながら、児童が主体的な学びをとおして、生きる力を身につけていくよう、その育成を図らなければならない。

●日吉津小学校の取組

日吉津小学校は、「心身ともに健康で、自ら考え、正しく判断し、21世紀にたくましく生きる、心豊かで実践力のある児童を育成する」を教育目標に掲げて取り組んでいる。期待する児童の姿として、「基本的な生活習慣、学習習慣が身に付き、意欲的に学習しようとする子ども」「認め合い、励ましあって共に育つ子ども」「学んだことを生かして家庭・地域に役立てようとする子ども」ととらえている。このように、「開かれた学校づくり」を目指し、学習基盤作りを家庭教育と連携しながら取り組む視点を持ち、総合的な学習の時間の推進をとおして、地域の人々との交流を位置づけながら、学んだことを家庭・地域に役立てようとする子どもの育成を実践している。そのことをとおして、子どもが主役の子どものための学校・心の通い合ううまいのある学校を目指している。

●学校の自立と協働

学校がこれまで取り組んできた教育を「自立と協働」という視点で自己点検してみたい。教師は学校教育の中心的役割を果たすが、家庭や地域の人材がより効果的に学習に参加できるシステムを作る必要がある。そのために、育てたい子どもの姿を共有化し、その教育のためにできることを、それぞれの立場で実践していく道筋をつくる必要がある。

〈地域の自立と協働〉

これまで、学校と地域連携は、学校に地域の人材が入るという現象ばかりがクローズアップされ、地域の教育力の高まりにまで至らなかった。これからは、人材同士の横のつながりを強めたり高めたりすることにより、教育力の高まりと共に、生涯学習としての位置づけも意味あるものとなる。地域の人々が願う子どもの姿をお互いに共有化して協働するシステムづくりと、子育て支援にかかわる地域の人々の輪を作ることによって、地域づくりにつながっていくもの考える。

3. 研究目標

家庭・学校・地域が一体となって「GUTS 日吉津っ子」の育成を目指し、それを支えていくむらづくりを展開するために、必要な推進組織の確立と学習プログラムを研究していく。

4. 研究仮説

■基本仮説

学社連携・学社融合の視点に立ち、家庭・学校・地域が育てる子どもの姿を共有し、一体となった推進組織を作り、子どもを支えていくためのプログラムの計画・実践を行う。このことにより、学校は、家庭や地域の教育力を得てより学校の教育力が向上し、家庭や地域は、それぞれの教育力を高めることができる。さらには、子どもをとおして村全体の人と人との関わりが豊かになり、子どもは地域の宝物という意識を浸透させることができるであろう。

■具体仮説

〈家庭〉

保護者は学校、地域と共に子どもを育てる社会の一員であることを深く認識し、PTAや地域と共に子育てに関わる課題を共有し共に実践化を図ることをとおして、親子の喜びやふれあい感を感じたり、PTA相互や地域の連帯感を生み、子育てをとおして地域の一員としての生きがいを強く感じ心豊かな生活が送れるであろう。

連携のための組織に関するプログラムづくりと実践の場づくり

〈学校〉

子どもたちが、家庭生活の在り方を親子で考え合い、地域の多くの人に出会い学ぶことをとおして、(様々な知識や価値観、優しさ、生きる喜びなどを感じ取るにより)人と人とのつながりから自分で考え行動し最後までやりとげることの大切さを学び、さらに学んだことを家庭や地域に役立てたいと願う子ども(郷土を愛する子ども)が育つであろう。

学校支援・地域教育資源の活用に関するプログラムづくりと実践の場づくり

〈地域〉

わが村の子どもたちという視点を持ち、学校の取り組みに参画し、学校の教育活動を支援することにより、地域の人々との連帯感が育まれ、子どもは地域の宝物という意識を高めることができるであろう。また、子どもとの学びをとおして、生きる喜び、学びの楽しさや一人一人の命の尊さ等、あらゆることで自分を振り返ることができ、新たな自分づくり、生きがいづくりにつながるであろう。

連携のための組織に関するプログラムづくりと実践の場づくり

5. 研究内容

■家庭

①企画・開発について

- 家庭との協働体制の確立
 - ・ P T A による連携のための組織づくり
 - ・ 地域による P T A 支援のための組織づくり

②実践について

- 学社連携・融合推進のための実践
 - ・ 支援組織による実践の場づくり
 - ・ 親子（地域）体験活動
 - ・ 基本的生活習慣づくり
 - ・ 親子関係の強化（「親子の約束」の実施）
 - ・ 学社融合のための日吉津村学社連携推進事業研究会との連携

■学校

①企画・開発について

- 学校支援ボランティアとの連携
- 地域の人々や自然と深くかかわるような学習のシステムづくり
 - ・ 地域人材を生かした年間指導計画の作成や位置づけ（各教科や領域、クラブ活動、様々な行事）
 - ・ 「生活科」や「総合的な学習の時間」への地域との協力体制の確立と活動の場の確保
 - ・ 地域の人材が参画した単元（題材）構想の企画立案

②実践について

- 学社連携・融合推進のための実践
 - ・ 地域・家庭での交流活動の充実
 - ・ 体験活動
 - ・ あいさつ運動の実施、読書活動の推進（例：家族 10 分間読書の実施）
 - ・ 学社融合のための日吉津村学社連携推進事業研究会との連携

■地域

①企画・開発について

- 地域との協働体制の確立
 - ・ 学校を支援していくシステム（学校支援ボランティア）の立ち上げ

- ・ 公民館や地域との連携のための組織づくり

②実践について

●学社連携・融合推進のための実践

- ・ 学校を支援していくシステム（学校支援ボランティア）による実践の場づくり
- ・ 親子（地域）体験活動
- ・ 学社融合のための日吉津村学社連携推進事業研究会との連携

■評価

●学社連携・融合推進のための評価について

- ・ 評価の観点・方法・場面の検討

6. 組織

■日吉津村学社連携推進事業研究会

日吉津小学校、小学校PTA、児童館、社会福祉協議会、青少年育成推進指導委員、中央公民館、西部教育局、日吉津村教育委員会 の各代表者により構成

●スーパーバイザー

島根大学教育学部長 高岡 信也 教授

Ⅱ 「ガッツ GUTS 日吉津っ子」が目指す子どものイメージ

日吉津村学社連携推進事業研究会では、日吉津の子どもたちの教育、子育てについて、プログラム開発会議等様々な場面で検討を重ねてきた。

その結果、まずは、日吉津村で青少年期を生きる子どもたちを、「日吉津っ子」という大きな概念でつかまえることが重要であるという認識に到達した。

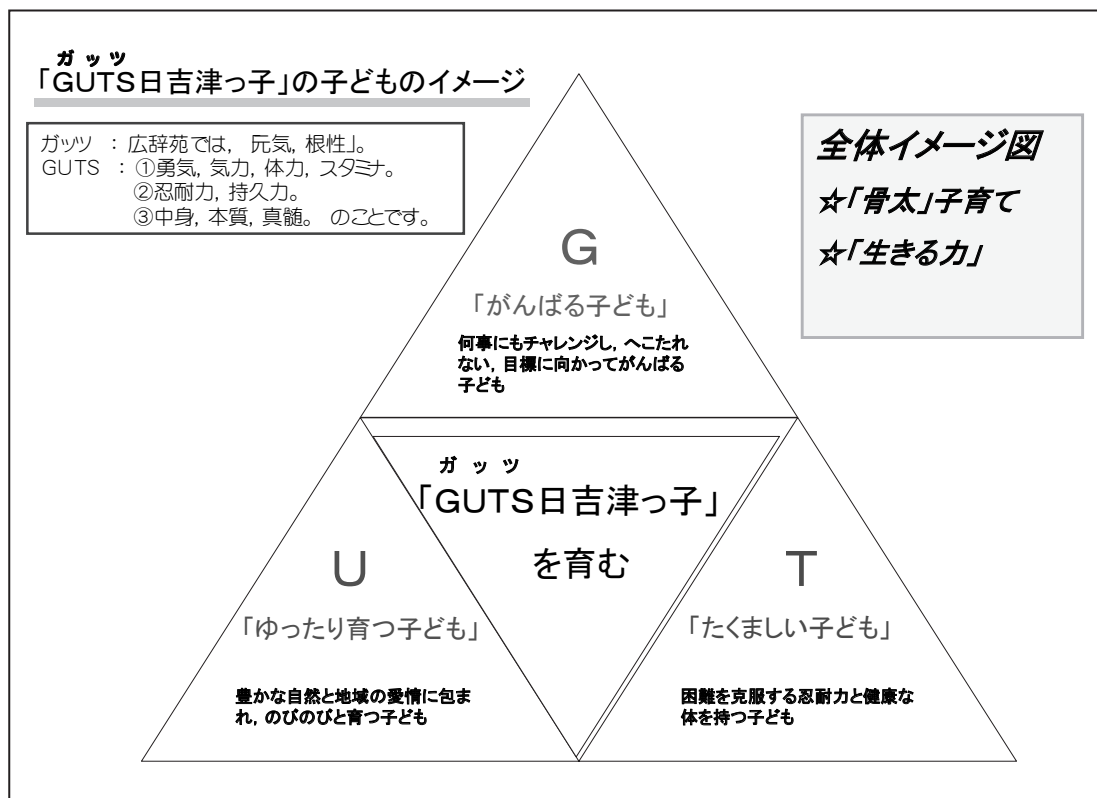
次に「日吉津っ子」の育つ様子を想像し、この「日吉津っ子」の概念の中に、私たち大人が求める子育ての目標を設定することが大切だという結論に達した。

そして「日吉津っ子」のイメージとして、「骨太な人格形成」の重要性に気づかされた。すなわち、①少々のことではへこたれない ②元気でかつチャレンジ精神にあふれた ③ひ弱な優等生ではなく精神的にも肉体的にも強い子ども ④弱者の気持ちを思いやるやさしさにあふれる子ども、等である。

これらの子どものイメージをまとめると、「ガッツにあふれ、力強く生きる力を持ち、複雑な現代社会を生き抜くたくましさを持つ子ども」という子ども像に到達した。そこから、みんなの宝物である子どもたちを育てるため、こうした大人の願いをよりわかりやすく表現する標語として、「GUTS 日吉津っ子」を考え出した。

さらに、「GUTS 日吉津っ子」の「G」・「U」・「T」をそれぞれ、「がんばる子ども」、「ゆったり育つ子ども」、「たくましい子ども」の頭文字となぞらえ、3つの子育て目標を設定した。

全体イメージは下図のとおりであるが、「G」・「U」・「T」がバランスよく、等しく取り組むことで、目指す「GUTS 日吉津っ子」が育つとの考え方から正三角形で表現した。

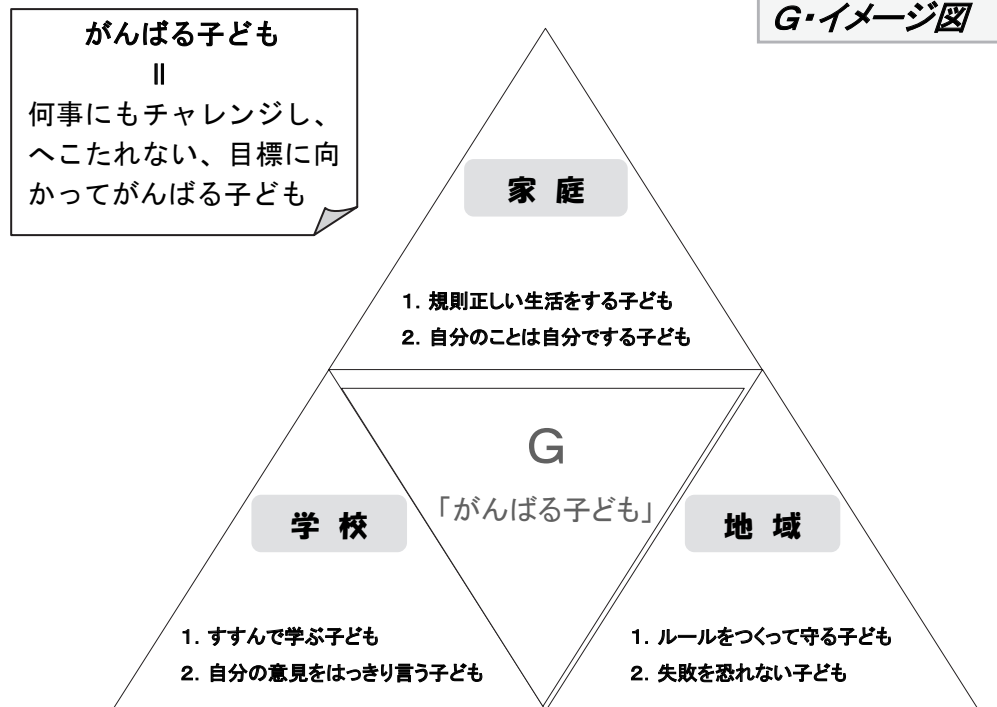


■ 3つの子育て課題

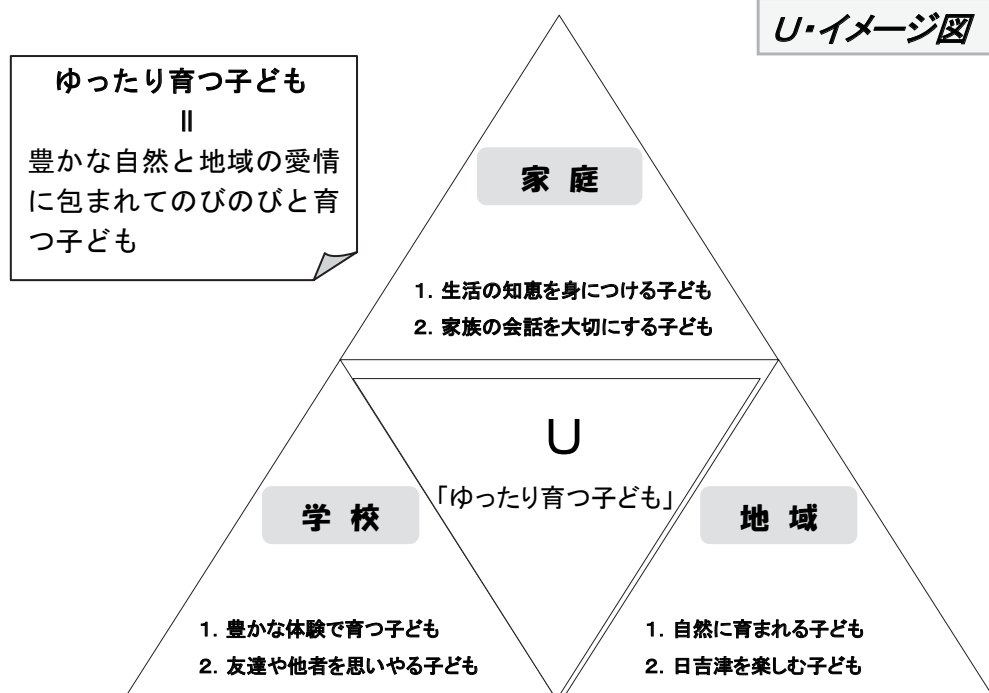
1. G・U・Tの子どものイメージ

次に、「G」・「U」・「T」とは、家庭・学校・地域の各領域において具体的にどのような子どもをイメージするかのを考え、それぞれ2項目ずつに整理した。

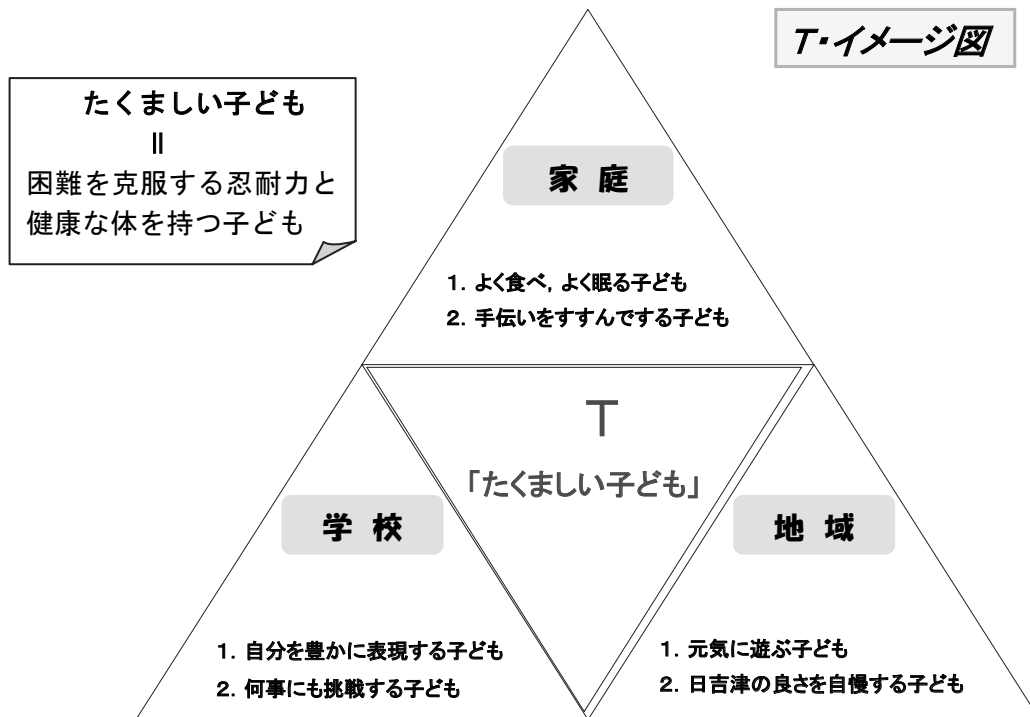
〈G「がんばる子ども」の課題〉



〈U「ゆったり育つ子ども」の課題〉



〈T「たくましい子ども」の課題〉



2. 子どものイメージを実現するおとなの取り組み

次に、「何を具体的に提供するとイメージどおりの子どもが育つか」つまり「GUTS 日吉津っ子」を育てるために「大人が子どもに提供する活動の分野」を家庭・学校・地域それぞれに整理した。これは子どもに対する具体的な活動が「どんな狙いで、どんな子どもを育てたいか」の目的となるべきものであり、その目的に添った活動ができているかどうかの評価基準にもなる。

〈G「がんばる子ども」の課題〉

【家庭では】

- ・ 早寝早起き運動を展開する
- ・ 「今日のがんばり」運動を展開する

【学校では】

- ・ 基礎的学力の確実な定着を目指す
- ・ 人権を基盤に据えた学級活動をとおして、確かな仲間づくりを目指す
- ・ あらゆる機会をとおして、学習発表や意見発表の展開につとめる

【地域では】

- ・ 社会のルールを身につける活動を展開する
- ・ スポーツにチャレンジする活動を展開する
- ・ 日吉津村の伝統、文化を知る活動を展開する

〈U「ゆったり育つ子ども」の課題〉

【家庭では】

- ・ふるさとの自然や伝統文化にふれる体験活動を展開する
- ・自分の子どもをよく知る活動を展開する

【学校では】

- ・心を磨き耕す朝読書と自然体験・社会体験活動を展開する
- ・様々な学年の交流をはじめ、高齢者・障害者との交流活動を展開する
- ・ノーチャイム活動により規律ある生活の展開を図る

【地域では】

- ・日吉津村の行事に参加する運動を展開する
- ・日吉津村の豊かな自然に学ぶ活動を展開する

〈T「たくましい子ども」の課題〉

【家庭では】

- ・元気に朝ご飯運動を展開する
- ・毎日お手伝い一つ運動を展開する

【学校では】

- ・保護者や地域の方々と連携したあいさつ運動を推進する
- ・芸術やスポーツ分野におけるマスター（優秀賞）運動を推進する
- ・企画・立案・運営まで手づくりの集会活動を展開する

【地域では】

- ・日吉津村の豊かな自然に学ぶ活動を展開する
- ・地域のスポーツ・文化行事や児童館が行う活動に参加する
- ・リーダーを育む活動を展開する

Ⅲ 成果と展望

1. 研究内容

■成果

学社連携・学社融合推進事業に取り組むなかで、日吉津村で行われている様々な事業の現状を把握し、それぞれの事業が子どもたちの育成にどのようなねらいをもって行われているか、振り返ることができた。そうすることで、家庭・学校・地域それぞれが自立と協働の視点に立って、自分たちが行っている事業のねらいや成果などを見直すことができた。

また、「子育てフォーラム in ひえづ」では、日吉津の子どもをどう育てたいかを、研究会のメンバーだけでなく多くの村民の方々とともに話し合い、日吉津村全体で目指す子どものイメージ「GUTS 日吉津っ子」を定め、これを目標に家庭・学校・地域が連携、協力して取り組んでいく構図をつくることができた。

さらに、大人が子どもに提供する活動の分野を整理し、活動を振り返る視点としての「評価基準」を設定することで、具体的な活動と目指す子どものイメージとの関係がより明確になった。このことで、家庭・学校・地域全体で連携、協力していく構図をさらにわかりやすいものにすることができた。

■展望

事業をとおして、日吉津の子どもをどう育てていきたいか「目指す子どものイメージ」をわかりやすく表現し、具体的な活動の指針となるものを明確にした。今後は、家庭・学校・地域みんなが、目指す子どもの姿である「GUTS 日吉津っ子」を意識して、お互いのもっている特長を活かしながら連携、協力していく。

それは単純に新しい取り組みばかりをはじめることではない。もちろん、「GUTS 日吉津っ子」を育むために不足している視点をねらいとした、新しい取り組みも展開していくが、今までいろいろな組織ごとに行っていた事業を学社融合の概念を盛り込んで見直したり、ほかの組織との連携、協力をすすめたりしながら、家庭・学校・地域が一体となって取り組んでいく。

何より大切なのは、「GUTS 日吉津っ子」を目指していろいろな取り組みをしていくなかで、子どもたちを中心に関わりあっている全ての村民の方々が、活動をとおして役立ち感ややりがい、喜びを感じることができるよう活動をすすめていくことである。「GUTS 日吉津っ子」を中心に、村民一人ひとりが輝く「いきいきむら日吉津」を目指し、さまざまな事業を展開していく。

2. 「GUTS 日吉津っ子」育成推奨事業について

「GUTS 日吉津っ子」を育むためには、家庭・学校・地域みんなが心をあわせて、子育てに取り組むことが大切である。

育成推奨事業とは「GUTS 日吉津っ子」の目指すイメージにより近づくために工夫を加えて企画されたモデル事業である。今後はこの推奨事業を中心として、家庭・学校・地域がお互いのもっている特長を活かして、連携・協力しながら様々な取り組みを展開していく。

今回、子どもたちと関わりの深い各団体・組織に、「GUTS 日吉津っ子」の目指す姿を意識しながら、学社融合の概念を盛り込んで育成推奨事業計画を作成してもらった。新規に計画した事業もあるが、これまでの事業をもとに整理・統合も含めて、いかに進化・体質改善すればよいかを主眼において作成した。

「GUTS 日吉津っ子」育成推奨事業計画書の記載方法

(主催団体)	
事業名 (取り組み)	単に大会名・イベント名ではなく具体的に何をするのが誰にでもわかるような事業名とする。
子どもの イメージ	G 学校 家庭 地域 1 2 1 2 1 2 U 学校 家庭 地域 1 2 1 2 1 2 T 学校 家庭 地域 1 2 1 2 1 2 (その事業がプログラム（目指す子どものイメージ）のどこを狙ったものかに○をつけ、その項目を記述する。)
活動の指針	何を具体的に提供するとイメージ通りの子どもが育つか、大人が子どもに提供する活動の分野を記載する。
活動内容	単に事業の内容だけではなく、子どもたちに、こういうことを体験させたい、そこからこういうことを学んでほしい、という事業のねらい、目的を明記する。 (学社融合の相手方及び趣旨) 学社融合の視点が盛り込んであるか、取り組んだ側にどういうメリットがあり、利用し合える関係づくりができているかを考慮する。

「GUTS 日吉津っ子」育成推奨事業計画書

(日吉津小学校)

事業名(取り組み)	大豆を育てよう (3年生：総合的な学習)
子どものイメージ	G 学校 家庭 地域 1 2 1 2 1 2 U 学校 家庭 地域 ① 2 ① 2 1 2 T 学校 家庭 地域 1 2 1 2 1 ② U学校①ー豊かな体験で育つ子ども U家庭①ー生活の知恵を身につける子ども T地域②ー日吉津の良さを自慢する子ども
活動の指針	日吉津村の特徴的な素材である大豆を取り上げ、自分たちで大豆を育てたり、大豆からできる食べ物を作ったりする体験活動を通し、地域の人々の工夫を学ぶことができる。
活動内容	総合的な学習の時間のうち、50 時間を使って、学校園で大豆の栽培を行う。その際に、畑作り、大豆の種類、大豆の植え方、育て方、収穫の仕方、豆腐づくりなどを地域の大豆栽培農家の方や改良普及所の指導員の方にゲストティーチャーとして来校していただき、支援や指導を受ける。 【GTの人数】のべ 24 人 【畑作り】耕運、堆肥、畝づくり 【植え方】たねまき（種まき機ゴンベエを使用） 【育て方】水やり、草取り、土寄せ 【豆腐づくり】枝豆づくり（9月）、豆腐づくり（1月） (学社融合の相手方及び趣旨) ○相手方 専門的な知識を持っておられる地域の大豆農家の方、改良普及所の指導員、食生活改善員 ○趣旨 直接に指導を受けられることにより、教師の支援、指導以上の学習内容と地域の方との交流や地域との結びつきが豊かになり、児童にとって大切な有意義な体験的学習となる。 農家の方にとっても将来の日吉津を担う児童との大豆づくりや豆腐づくりを通してのふれ合いは、大きな喜びである。また、GTの方も回数を重ねるごとに学校への協力の仕方も慣れてこられた。

「GUTS 日吉津っ子」育成推奨事業計画書

(日吉津小学校)

事業名(取り組み)	日吉津村の特産物アピール大作戦 (4年生：総合的な学習)
子どものイメージ	U学校①ー豊かな体験で育つ子ども T学校②ー何事にも挑戦する子ども T学校①ー自分を豊かに表現する子ども T地域②ー日吉津の良さを自慢する子ども
活動の指針	4年生では日吉津の特産品のネギについて調べたり、栽培したりする体験活動を行う。活動によって、地域と自分との関係に気づき、地域（日吉津村）に誇りを持ち、ともに生きようとする心を育てる。
活動内容	総合的な学習の時間のうち、43 時間を使って、学校園で白ネギの栽培を行う。 その際に、畑作り、畝の作り方、ネギの植え方、育て方、収穫の仕方などを地域の白ネギ栽培農家の方にゲストティーチャーとして来校していただき、指導を受ける。 【GTの人数】のべ10人 【畑作り】耕運、堆肥、畝づくり 【植え方】苗植え（手植え） 【育て方】水やり、草取り、土よせ 【収穫】機械を使って土を軟らかくする方法、抜き方 【ネギを使った料理】鴨なべづくり (学社融合の相手方及び趣旨) ○相手方 専門的な知識を持っておられる地域の白ネギ農家の方、食生活改善員 ○趣旨 直接に指導を受けられることにより、教師の支援、指導以上の学習内容と地域の方との交流や地域との結びつきが豊かになり、児童にとって大切な体験的学習となる。 また、農家の方にとっても将来の日吉津を拓く児童とのネギづくりを通してのふれ合いは、大きな喜びである。

「GUTS 日吉津っ子」育成推奨事業計画書

(日吉津小学校)

事業名(取り組み)	環境サミットを開こう！ (5年生：身近な水環境を考えよう)
子どものイメージ	G 学校 ① 2 家庭 ① 2 地域 ① 2 U 学校 ① 2 家庭 ① 2 地域 ① 2 T 学校 ② 1 家庭 ② 1 地域 ② 1 G学校①－すすんで学ぶ子ども T学校②－何事にも挑戦する子ども U家庭①－生活の知恵を身につける子ども T地域②－日吉津の良さを自慢する子ども
活動の指針	身近な水環境について調査し、水は貴重なものであることや、環境問題が人間の手で起こり、解決できるのも人間であることを認識する。日吉津村の豊かな自然に学び、日常生活で行動したり、社会のルールを身につけたりすることをねらう。
活動内容	水が我々の生活にとって大切な物であることを、学校の近くを流れる川などから採取してきた水の汚れ具合を、交流している島根大学生と一緒に調べたり、全国の水の汚れ具合を資料で探したりして学習を進める。3回学習。 【GTの人数】のべ18人 【水質検査】学級を何グループかに分け、日野川の水の汚れを検査する。 【地域の人々の努力】日野川の水質を守るために活動している人がいることを知る。 【全国の保全活動】全国で水環境を守る活動があることを知る。 【身近にできること】日吉津でできる水環境保全活動を考える。 【その他の環境問題】水環境以外の環境問題について知る。 (学社融合の相手方及び趣旨) ○相手方 大学生 ○趣旨 学習の進め方を知っている大学生と、しかもお兄さん、お姉さんの感覚と一緒に学習することで、児童は、興味を持続させながら課題解決に向かっていくことができる。 このことを通して、課題を見つける力や解決するための手順や姿勢を直接学ぶことができる。 教職の道を志している学生たちにとって直接に長時間児童と一緒に学習できることは、児童の心理や、考え方を理解できるよい機会であり、自分の指導力を磨くよい機会でもある。

「GUTS 日吉津っ子」育成推奨事業計画書

(児童館)

事業名(取り組み)	みんなで協力・子どもスポレク祭 ―ミニ運動会―
子どものイメージ	U学校②ー友達や他者を思いやる子ども T地域①ー元気に遊べる子ども U地域②ー日吉津を楽しむ子ども T学校②ー何事にも挑戦する子ども G地域②ー失敗を恐れない子ども
活動の指針	みんなで協力しながら元気に遊んだり、いろいろなことに挑戦することにより、友達や他者を思いやる子どもを育てる。地域の方々が活動の補助にかかわることで、子どもや保護者との親睦を深める。
活動内容	前もってアンケートにより子どもたちの希望を聞き、プログラムを作成する。用具を借りたり、自分たちで作ったりして準備をする。 テープきり競争、玉運び、ターゲットバードゴルフ、パンくい競争などに参加したり、友達を応援したりして楽しむ。活動補助にあたる地域のボランティアの人々との交流をとおり、親睦を深める。 休息時におやつを食べた後、片付けや今後に続く反省会を行う。 (学社融合の相手方及び趣旨) ○保護者、地域の人 ○児童館への活動に親子で参加することによって、保護者同士のつながりが深まるし、子どもたちと顔見知りになることができる。 家庭において、児童館での遊びや友達について話したりすることで、お互いに共感し合い親子の絆を強くする。 また、児童館で行ういろいろなスポーツ的な遊びについて地域の方々の協力、援助を受けることができる。

「GUTS 日吉津っ子」育成推奨事業計画書

(児童館)

事業名(取り組み)	夏休みがやってきた ―お楽しみゲーム大会と食事会―
子どものイメージ	G 学校 家庭 地域 1 2 1 2 ① 2 U 学校 家庭 地域 1 ② 1 ② 1 ② T 学校 家庭 地域 1 2 1 2 ① 2 U学校②ー友達や他者を思いやる子ども U家庭②ー家族の会話を大切にする子ども U地域②ー日吉津を楽しむ子ども T地域①ー元気に遊べる子ども G地域①ールールをつくり守れる子ども
活動の指針	親子で児童館が行う活動に積極的にかかわることにより、親子の絆を強めると共に、子どもたちがルールを守ったり、友達や他者を思いやる心を育てる。
活動内容	子どもたちと一緒にゲーム大会の内容について話し合い、ゲームに必要なもの（宝箱、鍵、クイズなど）を準備する。 当日の役割を分担し、それぞれの仕事をする。交代で食事の準備をした後、宝さがしゲームに参加しゲームを楽しむ。 片づけをし、食事会をしながらお楽しみ会についてみんなで話し合う。子どもたちは、ゲーム大会の企画・運営にかかわることで、縦割りの仲間づくりや連帯感が生まれ、誰とでも一緒に遊びを楽しむことができるようになる。 (学社融合の相手方及び趣旨) ○保護者 ○家庭において、児童館での遊びや友達についてはなしたりすることで、お互いに共感し合い親子の絆を強くすることで愛されているという実感を感じる。 保護者が参加し、子どもと共に活動することにより、子どもの姿を理解する。

「GUTS 日吉津っ子」育成推奨事業計画書

(児童館)

事業名(取り組み)	みんなで征服・秋の大山 ー親子バス遠足ー
子どものイメージ	G 学校 家庭 地域 1 2 1 2 ① 2 U 学校 家庭 地域 ① 2 1 ② ① 2 T 学校 家庭 地域 1 2 1 2 ① 2 U学校①ー豊かな体験で育つ子ども U家庭②ー家族の会話を大切にする子ども U地域①ー自然に育まれる子ども T地域①ー元気に遊べる子ども G地域①ールールをつくり守れる子ども
活動の指針	親子で大山の豊かな自然に親しみ、親子のふれあいや参加者同士の親睦を深める。
活動内容	親子でバスに乗って、秋の大山に行く。 大山自然科学館で説明を聞きクイズ合戦に参加する。親子で館内を見て歩きクイズを解いていく。科学館の職員による答え合わせをしてもらう。大山周辺を散策し、大山の自然に親しみ、集団行動のルールを守る。 当日雨の時は、大山の自然観察は中止とし、バスで紅葉を見て回る。 児童館に帰って、弁当を食べ親子で遊ぶ。自己紹介や話をして参加者同士交流を深める。 (学社融合の相手方及び趣旨) ○保護者 ○同じ目的を共有した家族間の親睦や交流、また、親子間のふれあいが多くできる。

「GUTS 日吉津っ子」育成推奨事業計画書

(日吉津村社会福祉協議会)

事業名(取り組み)	わくわく体験ボランティア
子どものイメージ	G 学校 家庭 地域 1 2 1 2 1 2 U 学校 家庭 地域 1 ② 1 ② 1 2 T 学校 家庭 地域 1 ② 1 2 1 2 U学校②ー友達や他者を思いやる子 T学校②ー何事にも挑戦する子 U家庭②ー家族の会話を大切にする子
活動の指針	親と子が一緒になって障害者との交流活動を展開する。
活動内容	親子で障害者施設に出向き、施設長から施設概要の説明を受けたり、実際に就業体験や見学を行い、施設における日常生活を学ぶ。また利用者の方と餅つきやゲームなどで交流を行ったり、昼食時の配膳などボランティア体験を行う。障害者との交流を通して優しさ、思いやり、福祉の心を育み、また親子で体験することによって家庭の中での話し合いや実践に結びつける。 (学社融合の相手方及び趣旨) ○保護者・学校・障害者施設の方 ○親子で一緒に体験することによって、交流を通して学んだことの確認や、家庭生活の中での実践へと結びつけることができる。また学校生活においても自分が出来る事、しなければいけない事の判断力を身に付け、相手のことを思いやる心を持って友達と接することができる。また障害者の方にとっては、子どもたちとのふれあいの中で、新たな活力を得る機会となり、生きがいづくりにつながる。

「GUTS 日吉津っ子」育成推奨事業計画書

(日吉津村社会福祉協議会)

事業名(取り組み)	心を育む学びと体験 (ボランティアスクール)
子どものイメージ	G 学校 家庭 地域 1 2 1 2 1 2 U 学校 家庭 地域 1 ② 1 ② 1 2 T 学校 家庭 地域 1 2 1 ② 1 2 U 学校①ー友達や他者を思いやる子 U 家庭②ー家族の会話を大切にする子 T 家庭②ー手伝いをすすんでする子
活動の指針	高齢者・障害者との交流を展開しながら学習活動をすすめる。
活動内容	福祉関係者や、障害をもった当事者を講師、またはビデオを使用し、「高齢」や「障害」とはどんなことなのか、どんなふうになるのかを教室形式で学んだり、実際に車椅子や装具を使って高齢者疑似体験を行う。また「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」といったことも学習する。 実際に地域に出かけていき、車椅子での移動・移乗体験や、ショッピングセンターでの買い物体験など身をもって経験する機会を設ける。またデイサービスセンター等でボランティア体験も行う。 それらの様々な経験や学習を通して、福祉の知識を学び、友達や他者を思いやる心を育み、自らすすんで行動ができ、自他の生命や人権を尊重しあえる人間の育成を図る。 (学社融合の相手方及び趣旨) ○地域の高齢者・障害者・保護者・デイサービスの方 ○保護者も家庭において、子どもと一緒に会話をしたり、学習することによって人権意識の高まりが期待できる。 高齢者や障害者も子どもたちとのふれあいの中で、子どもの素直な心、真剣に学ぶ姿、活発に活動する様子を肌で感じることによって、元気をもらい、新しい生きがいづくりにつながる。

「GUTS 日吉津っ子」育成推奨事業計画書

(日吉津小学校 PTA)

事業名(取り組み)	日吉津小・大レクリエーション祭り
子どものイメージ	G 学校 家庭 地域 1 ② 1 ② ① 2 U 学校 家庭 地域 1 2 ① ② 1 ② T 学校 家庭 地域 1 ② 1 2 ① ② G学校②—自分の意見をはっきり言う子ども G家庭②—自分のことは自分でする子ども G地域①—ルールをつくって守る子ども U家庭①—生活の知恵を身につける子ども U家庭②—家族の会話を大切にする子ども U地域②—日吉津を楽しむ子ども T学校②—何事にも挑戦する子ども T地域①—元気に遊ぶ子ども T地域②—日吉津の良さを自慢する子ども
活動の指針	自分の子どもをよく知る活動を展開する。
活動内容	児童・保護者・教職員が、クラス対抗となって、工夫を凝らしたゲームに興じる。終了後は、小学校グラウンド周辺において、全学年児童・保護者・教職員で懇親交流会を行う。各クラス役員(特にお父さんたち)などが中心となって、それぞれ工夫した模擬店を出店し利用しあう。 (学社融合の相手方及び趣旨) ○児童・保護者・教職員の連携 ○親が協力し合い楽しむ姿を見せることによって、児童にも日常のクラスの連帯感や仲間作りを学ぶ機会を作る。親のとしては、通常の参観日とは異なる子どもの姿、クラスの活動の様子を見ることができる。

「GUTS 日吉津っ子」育成推奨事業計画書

(日吉津小学校 PTA)

事業名(取り組み)	大山と日吉津を結ぶ～小学校思い出キャンプ
子どものイメージ	U 家庭①－生活の知恵を身につける子ども U 地域①－自然に育まれる子ども T 地域②－日吉津の良さを自慢する子ども
活動の指針	自分の子どもをよく知る活動を展開する。
活動内容	小学校6年生の親子で大山山頂登山、下山後、小学校へ帰り、6年間を振り返りながら行うお泊り会。 ①親子でチャレンジ / 大山山頂への登山 ②親子でリラックス / (あまりハードでない) ネイチャーゲーム等、レクリエーション ③親子で楽しむ / 皆で協力しながら、バーベキュー大会 ④親子で癒そう / 星を見る会など、癒しの時間とお泊り ⑤親子で感謝 / 早朝、草取りなど学校への奉仕活動 ※児童も保護者も6年間を振り返り、今後の夢や希望を語り、表現できるようなプログラムの工夫を。 (学社融合の相手方及び趣旨) ○小学校、PTA及びいくつかのボランティアサークルとの連携。 (登山や星を見る会などへの指導者など) ○6年間最後の思い出づくりとなるとともに、反抗期、独立心が強まる頃の親子のふれあいの場となる。楽しむだけではなく、何か小学校に残せること、表現活動につながるよう工夫したい。

「GUTS 日吉津っ子」育成推奨事業計画書

(中央公民館)

事業名(取り組み)	ちびっこお祭り探検隊
子どものイメージ	G 学校 家庭 地域 ① 2 1 2 ① 2 G学校①ーすすんで学ぶ子ども G地域①ールールを作って守る子ども U学校①ー豊かな体験で育つ子ども U 学校 家庭 地域 ① 2 1 2 ① ② U地域①ー自然に育まれる子ども U地域②ー日吉津を楽しむ子ども T地域②ー日吉津の良さを自慢する子 T 学校 家庭 地域 1 2 1 2 1 ②
活動の指針	昔から在る日吉津に伝わる祭りなどの行事に参加し、地域の方と交流しながら郷土の伝統文化への理解を深める活動を展開し、地元へ愛着を持ち日吉津を楽しむ心を育てます。
活動内容	・ 公民館グループ（郷土研究）の協力を得て、時代を象徴し地域に根ざした歴史や文化を伝え、シンボルとして住民に親しまれている蚊屋島神社の歴史・成り立ちを学校で予め学習をする。 ・ 蚊屋島地神社の例祭（4月11日・10月11日のどちらか）に参加し、地域の方からお話を聞いたり由緒を学んだりして祭典を見学し、日吉津に伝わる伝統文化活動を体験しながら学んでいく。 (学社融合の相手方及び趣旨) ○家庭・地域・公民館グループ・小学校 ○祭りの学習を通じ、地域の方との交流をもとに、日吉津の先人の思いや伝統文化への理解を深め、地元へ愛着を持ち日吉津を楽しむ心を育てる。

「GUTS 日吉津っ子」育成推奨事業計画書

(中央公民館)

事業名(取り組み)	シネマ & クラフト
子どものイメージ	G 学校 家庭 地域 ① 2 1 2 ① ② G学校①—進んで学ぶ子ども T学校②—何事にも挑戦する子ども U学校②—友達や他者を思いやる子ども U地域②—日吉津を楽しむ子ども U 学校 家庭 地域 ① ② 1 2 1 ② U学校①—豊かな体験で育つ子ども G地域①—ルールを作って守る子ども G地域②—失敗を恐れない子ども T地域②—日吉津の良さを自慢する子ども T 学校 家庭 地域 1 ② 1 2 1 ②
活動の指針	心を磨き耕す体験活動を通じて日吉津村の行事に楽しく参加する意欲を育て、夏休みなど規律ある生活の展開をはかる。
活動内容	日常の学校生活では授業時間の制約がある中で、夏休みの半日をゆったりと映画鑑賞することで感性を高めたり、自分の創意工夫でクラフトに挑戦できる場を与える。 ①ちびっこ映画館 ライブラリーの中から名作等、2～3作を大型スクリーンに上映し、異年齢の子どもどうして仲良く映画を楽しむ。 ②クラフトチャレンジ教室 地域の方の協力を得ながら普段使い慣れない小刀・のこ等を使い根気よくひとつの作品を仕上げ製作の楽しさを体験する。 (学社融合の相手方及び趣旨) ○児童館・地域住民 ○児童館と共催することにより、小さい子どもが参加しやすく、お兄さんお姉さんが役立ち感を感じられる。 地域住民の方が工作を通して子どもとのふれあいにより充実感を感じられる。

「GUTS 日吉津っ子」育成推奨事業計画書

(教育委員会社会体育)

事業名(取り組み)	レッツ ティービージー Let's、T B G (ターゲット・バードゴルフ) クラブ
子どものイメージ	G 学校 家庭 地域 ① 2 1 2 ① ② G学校①—すすんで学ぶ子ども G地域①—ルールをつくって守る子ども G地域②—失敗を恐れない子ども U学校①—豊かな体験で育つ子ども U家庭①—生活の知恵を身につける子ども U家庭②—家族の会話を大切にしている子ども U 学校 家庭 地域 ① 2 ① ② ① ② U地域①—自然に育まれる子ども U地域②—日吉津を楽しむ子ども T学校①—自分を豊かに表現する子ども T学校②—何事にも挑戦する子ども T地域①—元気に遊ぶ子ども T地域②—日吉津の良さを自慢する子ども T 学校 家庭 地域 ① ② 1 2 ① ②
活動の指針	日吉津名物のターゲット・バードゴルフに挑戦することでルールやマナーを身につけたり、豊かな自然の中で思い切りプレーする楽しさを体験する。
活動内容	日吉津村で開催された、全国スポーツ・レクリエーション祭種目別大会。これを機にターゲット・バードゴルフ (T B G) のクラブを作り、鳥取県T B G協会の方々 (日吉津村民の方) に指導していただく。天候が良い場合には、日野川河川敷運動広場や海浜運動公園へ行き、自然の中で思い切りプレーを楽しむ。競技をより楽しめるように、子どもたち独自のルールを決めたり、競技方法を工夫する。 (学社融合の相手方及び趣旨) ○学校・保護者・地域の方 ○未経験の難しい競技に挑戦することで何事にもチャレンジする心を培いたい。また競技を通じてルールやマナーを守ることが身につけて欲しい。全国大会を開催した、ターゲット・バードゴルフの村という意識で日吉津村を感じてほしいし、競技を行う環境 (自然) を楽しんだり、感謝したりできる子どもになってもらいたい。地域の方々も子どもたちと活動することで、ターゲット・バードゴルフの楽しさを再認識し、体を動かす機会とする。

「GUTS 日吉津っ子」育成推奨事業計画書

(教育委員会社会体育)

事業名(取り組み)	チャレンジ・ザ・ゲーム
子どものイメージ	G 学校 家庭 地域 1 2 ① ② ① ② U 学校 家庭 地域 1 ② 1 ② 1 ② T 学校 家庭 地域 1 ② ① 2 1 ② G家庭①ー規則正しい生活をする子ども U地域②ー日吉津を楽しむ子ども G家庭②ー自分のことは自分でする子ども T学校②ー何事にも挑戦する子ども G地域①ールールをつくって守る子ども T家庭①ーよく食べ、よく眠る子ども G地域②ー失敗を恐れない子ども T地域①ー元気に遊ぶ子ども U学校②ー友達や他者を思いやる子ども T地域②ー日吉津の良さを自慢する子ども U家庭②ー家族の会話を大切にしている子ども
活動の指針	異学年や保護者、地域の大人たちとスポーツを通じた交流を行うことによって、何事にもチャレンジし、スポーツを楽しむ活動を展開する。
活動内容	スポーツ少年団各部と先生の交流試合を行う。 ①先生チーム対子どもチーム ②野球部対サッカー部のような各部対抗 ③子どもチーム対大人チーム ※競技力に差がある場合は特別ルールを設けて試合が楽しめるように工夫する。他のスポーツを経験したり、先生や親とスポーツすることで普段の競技とは違い、純粋にスポーツを楽しむことができるのではないかな。他のスポーツをする子どもたちを認め、友達のことを思いやる心が芽生えることを期待する。 (学社融合の相手方及び趣旨) ○学校・保護者・地域の方 ○スポーツ少年団活動で培っている子どもたちのリーダー性やチャレンジ精神を感じてもらいたい。学校や家庭では見せない様な姿を見せてくれるのではないかな。親や先生それぞれも交流することで互いに認め、互いに信頼しあう良い関係づくりができる。

「GUTS 日吉津っ子」育成推奨事業計画書

(教育委員会)

事業名(取り組み)	いろいろな人と何でもチャレンジ (カルチャー少年塾)
子どものイメージ	G家庭②－自分のことは自分でできる子ども U地域②－日吉津を楽しむ子ども G地域①－ルールをつくり守れる子ども T地域②－日吉津の自慢ができる子ども U学校①－豊かな体験で育つ子ども U家庭②－家族の会話を大切にする子ども
活動の指針	異年齢との交流を図りながら、日吉津村の豊かな自然や伝統文化にふれる体験活動を展開する。
活動内容	4月に開校式をする。内容は子どもたちの要望を取り入れながら一年間の活動を決める。原則月一回の活動をする。自分たちでプログラムを決めることによって個々の自立や、主体性を身につけさせる。また異年齢交流となる班活動を通して、友達と協力することの大切さ、リーダーの育成を図る。保護者にも呼びかけ、子どもと一緒に活動することにより、親子のふれあいの機会とする。日吉津の豊かな自然に触れたり、村内の史跡を探索し、日吉津の歴史や文化について学ぶ。あいさつ、人の話をきちんと聞く、時間を守る、待つことなど社会のルールを身につける。 (学社融合の相手方及び趣旨) ○保護者・地域で活動している個人もしくはグループ ○保護者そして地域の方々が子どもを育てる社会の一員であることを意識し、目的を共有し協働することで、役立ち感、自己存在感、自己実現感等が生まれ、心豊かな生活が送れる。

「GUTS 日吉津っ子」育成推奨事業計画書

(教育委員会)

事業名(取り組み)	遊び学ぼう自然の中で (子どもの日まつり)
子どものイメージ	G 学校 家庭 地域 1 2 1 2 1 2 U 学校 家庭 地域 ① 2 1 2 1 2 T 学校 家庭 地域 ① ② 1 2 1 ② U学校①ー豊かな体験で育つ子ども U家庭①ー生活の知恵を身につける子ども U地域②ー日吉津を楽しむ子ども T地域①ー元気に遊べる子ども G地域①ールールをつくり守れる子ども
活動の指針	親子が一緒になって日吉津の豊かな自然の中で遊び、学ぶことにより、親子のふれあいを深め、さまざまな体験活動から体づくりや自然を大切にしていく心を育み、感動の心を育てる。
活動内容	子どもの日まつり実行委員会を立ち上げ、内容を検討する。日吉津村海浜運動公園や松林、海岸線など日吉津の自然をステージとする。親子の触れ合いや、親子が一緒になって日吉津の豊かな自然の中で遊び、学ぶ。そして様々な体験活動から元気な体づくりはもちろん、自然を大切にしていく心を育み、感動の心を育てる。 (学社融合の相手方及び趣旨) ○村子連・青少年育成村民会議・社会教育委員等 ○保護者、地域の方々が沢山係わり、子育ての目的を共有し協働することによって、日吉津村全体で日吉津の子どもたちを育てるという雰囲気づくりができる。そのことによって家庭、地域の自立が図られ、人々が生き生きとする日吉津村が生まれる。

Ⅳ 今後の展開

「GUTS 日吉津っ子」を育むために、今後は育成推奨事業を中心に取り組みを進めていくが、家庭・学校・地域は自立しながらも、目標を共有し、お互いの特異性を認め、利用し合える関係づくりが大切である。ここでは、家庭・学校・地域それぞれの立場から、「GUTS 日吉津っ子」をとおしての今後のあり方を考える。

■家庭から

「GUTS 日吉津っ子」の育成にあたっては、あらためて家庭の役割が重要視されているが、個々の家庭の機能は弱まっていると言われ、それぞれ様々な価値観や暮らし方があって、一つの方針によって方向付けできるものではない。PTAや保護者会のような機能を生かして、子育てする親・家庭同士が支えあい、子育ての楽しさを共有できるような場によって、個々に浸透させていくことが必要だろう。

様々な変化の中で子どもを伸び伸び育てていくには、やはり家庭は子どもにとって安らぐ場であり、仲良く何でも話せる場でなければと考えている。モノが豊かで、利便性に富み、情報の氾濫する現代、家庭で厳しくしつけることは困難な面がある。「子育てはまず親や家庭の責任」という考え方は当然ではあるが、その意識が強すぎると、その裏返しで「よその子どもに構うな、うちの子どもを叱るな」という発想につながるのではないか。

父母はともに、学校にも関心を持つと同時に、豊かな地域環境や地域の人々に支えられていることに気づき、感謝しながら、子どもとともに地域行事などに参加していくことが必要だ。この感謝の連鎖こそ、地域のよき風土・伝統としてつながっていくことであり、自らの幸せや心の豊かさにつながるものだ理解したい。

■学校から

日吉津小学校には年間およそ200人の保護者や地域の方々が来校され、子どもたちの学習の支援、交流と様々な形で協力をしていただいている。児童が年間登校するのは、およそ200日であるから、平均すると一日一人の方が何らかの形で来校していることになる。これほどに保護者や地域の方に見守られながら学習できる環境にあることは、有り難い限りである。

地域や保護者の中には、専門的な技能・知識を持っている方、学校に協力したいと思っている方等もっといらっしゃるはずである。そういう方々に来校してもらい、協力、支援していただけるようになること、そして、それを様々な学習に広げていくことが、さらなる学社連携・融合につながると考える。

そのためには、今後の展開として、“専門的な知識・技能を発揮”してもらおかたち。学校から“お手伝いをお願いします”というかたち。保護者・地域から“こんなことをしたいけど”というかたち、等様々なかたちで連携や協力を進めていくことが必要と感じている。

地域に開かれ、地域の教育力を充分に取り入れながら、家庭・学校・地域が同じ願いを持ち双方向で日吉津の子どもたちを育てることは、必ずや学校教育の充実につながるであろう。

■地域から

「子どもは地域の宝物」という意識の高まりのなか、安全パトロールなど地域の方々が積極的に子どもたちを見守り、応援をしてくださっている。地域は個々の家庭を含めて、子どもたちを支え育む場であって、どこ子どもも地域の子どもだという視点を大切にしていきたい。

学社連携・融合することにより、地域の方の専門的な知識や技能を十二分に発揮していただけるように、子育て共同体として教育支援ボランティアを組織化したり、地域の学びと育ちの場づくりの提供をしたりなど、願う子どもの姿を共有化し協働するシステムづくりに取り組むことが必要だと考える。

そうしたシステムに基づき取り組みをすすめることで、学校教育との一体感、また地域人としての役立感、充実感も得られ、みんなの生きる喜び、生きがいづくりにつながるであろう。こうした「子どもの育ち」＝「人づくり」が地域の輪をつくり、さらには地域の活性化すなわち「むらづくり」につながるものと確信し取り組みをすすめていく。

「GUTS 日吉津っ子」Q & A

Q 「GUTS 日吉津っ子」って何？

A みんなの宝物である子どもたちを育てるための、「目指す子どものイメージ」をわかりやすく表現しようとしてつくった言葉です。

Q どんなことを目指しているの？

A 家庭・学校・地域が一体となり「GUTS 日吉津っ子」育成の取り組みをすすめていきます。参加、協力などで関わっていただく皆さんにも、やりがい、役立ち感などを感じてもらおうことを目指しています。

「GUTS 日吉津っ子」を育むことで、村民みんながいきいきと輝く村づくりをすすめます。

Q 具体的にどんなことをするの？

A まずは、「GUTS 日吉津っ子」の目指す姿を意識して計画した「育成推奨事業」を行っていきます。

そして、学校やPTA、公民館などの組織が事業を企画、実施するときは、目指す「GUTS 日吉津っ子」の姿を意識しながら、お互いがもっている特長を活かして、連携・協力していきます。

Q 今でもたくさん行事があるのに、これからもっとふえるの？

A 行事の数がふえるわけではありません。今まで、いろいろな組織ごとに行っていた行事を「GUTS 日吉津っ子」をもとに、見直したり、他の組織との協力をすすめたりしながら実施します。

Q どんなことをしたらいいの？

A まずは、「GUTS 日吉津っ子」について、このパンフレットを参考に家庭や学校、地域などで話をしてみてください。

次に、いろいろなところで行う「GUTS 日吉津っ子育成推奨事業」に、子どもたちと一緒に参加、協力していきましょう。

Q 「学社連携」と「学社融合」の違いは何？

A 「学社連携」というのは、学校教育、社会教育のどちらか一方に主体があり、その一方が自らだけで行うよりも高い教育・学習効果を得るために、もう一方の教育・学習作用を取り入れる状態であり、どちらか一方にメリットがあります。

「学社融合」というのは、学校教育・社会教育の双方に主体があり、それぞれの教育効果をあげるために、ともに他者の教育・学習作用を取り入れる状態であり、双方にメリットがあります。

Q 「学社連携・融合」のねらいは？

A 「学社融合」は、学校教育と社会教育が両者の機能を相乗的に作用させることによって、体験を重視した豊かな教育内容を想像し、提供する新しい教育・学習システムともいえます。「学社連携・融合」は、今日求められている豊かな心やたくましさを兼ね備えた子どもたちの「生きる力」の育成に効果的であり、学校教育の充実や地域社会の活性化につながり、ひいては生涯学習社会を実現していくことになります。

Q 地域の教育資源とは何？

A 地域の人材としての「ひと」、地域の自然・文化遺産・施設等の「もの」、地域の行事や催し物の「こと」の3つがあげられます。

Q 地域の教育資源を活用するにはどうしたらいいの？

A 地域の教育資源を効果的に活用するためには、活用する意義や目的を明確にし、「活用することが目的」にならないようにすることが大切です。そして、事業を行っていく上で、指導者との共通認識を深めるとともに、教育・学習効果が高まる方法で活用していく工夫が必要になります。さらに、思いつきや無計画に地域の教育資源を利用するのではなく、子どもの教育・学習活動への効果的な活用を考えた総合的・計画的な実施が必要です。

お わ り に

平成 16 年から取り組み始めた「学社連携・学社融合推進事業」。初めは何から手をつけてよいのかわからず暗中模索の船出でした。まずは、子どもたちを対象とした事業の現状把握をしたところ、様々な分野で数多くの事業が、おのこの政策イメージで行われている実態がわかりました。そこで、この事業の趣旨である「学社連携・融合」の視点に立った計画にするためにはどうしたらよいかを考えました。そのためには「日吉津の子どもたちにどういう子どもに育ってほしいか、の目標を中心に掲げ、家庭・学校・地域が目標を共有し、バランスよく協働していくことが大切である」という結論になり、最終的に「GUTS 日吉津っ子」という日吉津の子育て目標が決まりました。

日吉津村は、一村一校であり、地域ぐるみで子どもを育てようという住民意識が高いところです。今回の計画策定にあたり、子育てフォーラムの開催等、村内の団体が結集して、子育てについて考え、プログラムを作成したことに大変意義深いものがありますし、そのことによって学社連携・融合の概念が盛り込まれた計画が出来上がったと思います。

もう一つの成果として、計画づくりをする際、今自分たちが行っている事業の振り返りと見直しをすることが出来ました。あらたに事業を起こすのではなく、いかに進化、体質改善すればよいかを考え、取り組んでいきます。

小学生の保護者を対象に家庭教育のアンケート調査を実施しました。今後この結果を踏まえながら、PTA等をとおして課題を共有し、克服するための取り組みを進めていきたいと考えています。そして、何といたっても子どもたち自身が、家庭の一員、さらに地域の一員として、主体的にどう参加、参画していくかを考えていくことも重要な点であると思います。

さあ、これからがスタートです。「GUTS 日吉津っ子」の育成という子育て支援の実践を通して、村民一人ひとりが輝く「いきいきむら日吉津」を目指していききたいと思います。

最後になりましたが、「日吉津っ子」の健やかな成長、さらには「むらづくり」のために、このような貴重な機会を与えていただきましたこと、併せまして、高岡先生はじめ関係ある皆様方に多大なるご指導、ご協力いただきましたことに心より感謝とお礼を申し上げます、事業の報告とさせていただきます。

平成 19 年 3 月

日吉津村学社連携推進事業研究会

資料集目次

活動の経過	33
-------	----

資料	38
----	----

※資料は、活動時に作成したものを掲載。文言等は変更になっています。

(参考)アンケート	74
-----------	----

活動の経過 ※活動に関連して作成した資料などは別添資料を参照してください。

■第1回 プログラム開発会議（平成16年6月29日）

- 日吉津村学社連携推進事業研究会のメンバーが集まり、事業の趣旨、経過説明。
- 先進地事例紹介。

■第2回 プログラム開発会議（平成16年9月15日）

- 日吉津村で小学生を対象に行われている事業の現状を把握、整理。
 - 事業一覧表のまとめ方、こらからの進め方についての意見交換。
- ※資料① 小学生を対象とした事業一覧

■プログラム開発会議委員視察研修会（平成16年10月26日）

- 島根県立浜田教育センター
（平成16年度小・中学校学社連携・融合講座を受講）

■日吉津小学校教職員・
プログラム開発会議委員合同研修会（平成17年3月29日）

- 教職員へ事業概要の説明。
 - スーパーバイザーの高岡教授による講演「学社連携・融合とは」。
- ※資料② 講演資料

■第3回 プログラム開発会議（平成17年8月10日）

- 事業の研究構想図を作成。
- 学社連携・融合を実践するためのシステムを図表化。



←研究構想図について協議

※資料③ 研究構想図

■「子育てフォーラム in ひえづ」（平成17年10月22日）

○子育て講演（高岡信也教授）

『学社融合で「豊かな子育て村 日吉津」をめざそう

～家庭・学校・地域が協働する「子育て共同体」を創る～』

○ワークショップ

「わいわい、がやがや ひえづの子育てを考える」



←ワークショップ

（日吉津村の子どもをどう 育てたいかの夢を語ってもらう）



※資料④－1 フォーラムチラシ

※資料④－2 フォーラム当日資料

※資料④－3 ワークショップシート

■第4回 プログラム開発会議（平成18年2月13日）

○「子育てフォーラム in ひえづ」の集約。

○日吉津村全体の子育てキャッチフレーズを「GUTS 日吉津っ子」の育成に決定。

○子育て目標を実現するための具体策についてグループ討議。



←グループ討議

※資料⑤－1 ワークショップまとめ

※資料⑤－2 「GUTS 日吉津っ子」イメージ図（全体）

※資料⑤－3 「GUTS 日吉津っ子」イメージ図（個別）

■第5回 プログラム開発会議（平成18年3月22日）

○「GUTS 日吉津っ子」のイメージ図作成についてグループ討議



育てたい子どもの
イメージにつ
いて

←グループ討議

発表→



※資料⑥－1 イメージ図（記入前）

※資料⑥－2 イメージ図（記入後）

■第6回 プログラム開発会議（平成18年4月22日）

- スーパーバイザー高岡教授による講義「子どものイメージ図について」
- 「GUTS 日吉津っ子」のイメージ図作成についてグループ討議
（家庭・学校・地域各領域における目指す子どものイメージを3つに絞る）



←高岡教授の講演



↑グループ討議



←グループ討議

- ※資料⑦-1 イメージ図（GUT）
- ※資料⑦-2 イメージ図（家庭、学校、地域）
- ※資料⑦-3 イメージ一覧

■第7回 プログラム開発会議（平成18年6月28日）

- 「GUTS 日吉津っ子」のイメージ図作成について
 - ・現在各団体が行っている事業を、目指す子どものイメージごとに分類・整理。
- 今後の取り組みを確認

■第8回 プログラム開発会議（平成18年7月24日）

- 「GUTS 日吉津っ子」のイメージ図作成について
 - ・前回の分類結果を見直し、確認した後、グループ討議で各項目を3つずつに絞込み。
 - ・目指す子どものイメージに合致する事業があてはまらないものができ、中断。



←グループ討議

- ※資料8 イメージ図（趣旨に合致する事業が対応したもの）

■第9回 プログラム開発会議（平成18年8月25日）

- スーパーバイザー高岡教授による講義「子どものイメージ図について」
 - 「GUTS 日吉津っ子」のイメージ図作成について
 - ・前回中断していた作業を再開。
 - ・子どものイメージと事業の間に具体的な活動の指針となる中間項を作成。
- ※資料⑨ 中間項（具体的な活動指針）と対応するイメージ図

■第10回 プログラム開発会議（平成18年10月13日）

- 「GUTS 日吉津っ子」のイメージ図作成について
 - ・目指す子どものイメージを各項目2つずつに絞り、中間項を整理。
 - ・「GUTS 日吉津っ子」の育成の全体図を作成。
 - 「GUTS 日吉津っ子」育成推奨事業計画書の作成を各団体で検討
- ※資料⑩ イメージ図（中間項入り）
- ※資料⑪ 「GUTS 日吉津っ子」育成全体図

■第1回 編集委員会（平成18年10月25日）

- 報告集・パンフレットの作成について目次やスケジュールを協議

■第2回 編集委員会（平成18年11月16日）

- パンフレットの原案をもとに協議



←編集委員会の様子

■第11回 プログラム開発会議（平成18年12月7日）

- 「GUTS 日吉津っ子」の育成立体図を作成
 - 「GUTS 日吉津っ子」育成推奨事業計画書をグループ討議で再検討
 - パンフレット・報告集の作成について経過報告
- ※資料⑫ 「GUTS 日吉津っ子」育成立体図

■第3回 編集委員会 (平成18年12月20日)

- パンフレットの修正案をもとに協議
- 「GUTS 日吉津っ子」育成推奨事業計画書を完成

■第4回 編集委員会 (平成18年1月11日)

- パンフレットの原稿最終確認

■第5回 編集委員会 (平成19年1月31日)

- パンフレットの最終校正
- 報告集の内容等確認
- ※資料⑬ パンフレット

■日吉津村生涯学習むらづくり推進大会 (平成19年2月12日)

- パネルディスカッション『みんなで育てよう！「GUTS 日吉津っ子」』
- 講演会(高岡信也教授)
『学社融合で「GUTS 日吉津っ子」を育て、いきいきむら日吉津をめざそう！』
～家庭・学校・地域が協働する「子育て共同体」を創る～
- 「GUTS 日吉津っ子」宣言



←高岡教授の講演



↑パネルディスカッション



←「GUTS 日吉津っ子」宣言

※資料⑭ 「GUTS 日吉津っ子」宣言文

※資料⑮ 新聞記事

■第6回 編集委員会 (平成19年3月6日)

- 報告集の原稿を作成

■小学生を対象とした事業一覧（団体・学年別）

団体名	事業(单元)名	時期	地域の教育資源活用		
			ひと(人材)	もの(施設)	こと(行事等)
日吉津小学校	七夕交流	7月	デイサービスの方	デイサービス	
	敬老会で発表	9月			敬老会
	秋見つけ探検	10月		湊山公園	
	いも祭り	11月	地域のお年寄り		
	昔の遊び	1月	地域のお年寄り		
	保育所との交流	1月	保育所園児		
	チューリップ畑に散歩	4月		チューリップ畑	
	自然との触れ合い	7月		日吉津村内	
	運動会へ招待	9月	地域のお年寄り		
	お年寄りへ手紙を出す	9月	75歳以上のお年寄り		
	平和展	10月			平和展
	村ふれあいフェスタ	11月			村ふれあいフェスタ
	学習発表会への招待	11月	地域のお年寄り		
	野菜苗植え	5月	地域のお年寄り		
	日吉津探検	6月		日吉津村内	
	ミニ旅行	10月		境港市	
	保育所見学	2月	保育所の先生	保育所	
	村内公共施設探検	4月	各施設の方	村内公共施設	
	アユ飼育場	4月～5月	漁協の方	アユ飼育場	
	大豆作り	6月～7月	大豆生産組合		
	白ネギ作り	9月～11月	ネギ生産組合		
	大豆作り	9月～12月	大豆生産組合		
	資料館見学	10月	資料館運営委員	資料館	
	ジャスコ日吉津店見学	10月	ジャスコの方	ジャスコ日吉津店	
	王子製紙見学	11月	王子製紙の方	王子製紙	
	交番見学	2月	駐在さん	交番	
	大豆、ネギの収穫祭	2月	各生産組合		
	サケの放流	2月	漁協の方	日野川	
	役場(水道の話し)	5月	役場職員・米子市水道局員		
	ごみの始末	5月	クリーンセンター職員	淀江クリーンセンター	
	西川探検	6月		西川	
	ごみの始末	6月	リサイクルプラザ職員	岸本リサイクルプラザ	
	西川探検	10月	箕蚊屋土地改良区他	西川	
	郷土の人々の願い	10月	地域のお年寄り		
	囲碁将棋専門クラブ	4月～3月	囲碁将棋クラブ		
	日吉津英語学園	4月～3月	在日外国人の方		
	のほほん(お茶)	4月～3月	茶道グループ		
	HAIKU(俳句)	4月～3月	俳句グループ		
	福祉センター交流学习	12月	地域のお年寄り	福祉センター	
	チューリップ	4月～12月	チューリップ生産者	村内圃場	
	福祉センター見学	11月	福祉センターの方	福祉センター	
	スキー教室	2月	村内指導者	大山	
	人権について	5月	山西さん		
	障害について	6月	武本さん(村外)		
	地域の同和教育	11月	ジャスコの方、役場職員		
	村議会見学	2月	村議会職員	議場	

■小学生を対象とした事業一覧（団体・学年別）

団体名	事業(単位)名	時期	地域の教育資源活用		
			ひと(人材)	もの(施設)	こと(行事等)
社会福祉協議会	七夕交流会	7月6日	ボランティア	デイサービスセンター	
	音楽交流会	10月	デイサービス利用者	日吉津小学校	
	学校募金	10月～12月		日吉津小学校	
	わくわく体験ボランティア	1月	ワークホーム利用者、職員、ボランティア	米子ワークホーム	
	デイキャンプ	3月	ボランティア	海浜運動公園	
	柏餅作り交流会	6月8日	ボランティア	デイサービスセンター	
	ボランティアスクール	8月	地域の高齢者・障害者の方、ボランティア	福祉センター他	
	ジャスコ街頭募金	10月～12月		ジャスコ	
	クリスマス会	12月	ボランティア	デイサービスセンター	
児童館	親子遠足	5月18日	親		
	親子除草作業・ボーリング	7月12日	親		
	親子工作教室	8月23日	親		
	元気な体教室	10月	食改の方		
	ふれあいフェスタ	11月2日	親		ふれあいフェスタ
	親子忘年会	12月21日	親		
日吉津小PTA	親子でカレー作り	8月24日	親		
	子どもと共に汗を流す会	8月24日	親		
	わくわく体験ボランティア	1月17日	ワークホーム利用者、職員、ボランティア	米子ワークホーム	
	そうめん流し・サラダ作り	7月11日	親		
	親子ボート試乗会	8月24日	親		
	バームクーヘン作り・GG	9月28日	親		
	りんご狩り	10月19日	親		
	学校お泊り会・星を見る会	8月23・24日	親		
	親子自転車教室	10月18日	交通安全指導員・親		
	卒業を祝う会	3月19日	親		
中央公民館	囲碁教室	4月～3月	囲碁クラブの方		
	ちびっこ公民館	7月～8月		中央公民館	
	平和展	10月			平和展
教育委員会	子どもの日まつり	5月	地域のボランティア・親	海浜運動公園	
	各自治会キャンプ	7月	親	海浜運動公園	
	カルチャー少年塾	7月～3月	地域のボランティア		
	写生会	8月	地域の指導者		
	村民運動会	10月			運動会
	廃品回収	11月	親・地域の方々		
	レク&クリスマス会	12月	親		
	親子ボーリング教室	2月	親		
	スポーツ少年団	4月～3月	地域の指導者		
	リーダー研修会	6月	親・地域の指導者	大山青年の家	
	チューリップ栽培	4月～12月		村内圃場	
村建設産業課	交通安全教室	6月	交通安全協会の方		
	川遊び	8月	地域のボランティア	西川	
	井手ウォーク	7月	改良区の方々他	日野川	
	ホテルを復活させよう	3月	改良区の方々他		

学 校（教 師）と 地 域 連 携

- 教育改革を主体的に担う新しい教師像の構築 —
- 学校を支えるまちづくり、学校融合のまちづくり —

鳥根大学教育学部 高 岡 信 也

I. はじめに

- ☆「第三の教育改革」の課題 → 生涯学習社会を担う次世代型教育システムの構築
- ☆「生涯学習のまちづくり」の課題 → 「生涯学習によるまちづくり」への転換
- ☆二つの課題の交差する地点 → 「学校融合」のまちづくり、「地域の教育力の再生」

II. 「子どもたちが育つ」、「子どもたちが育てる」環境を創る

- ☆「学校融合のまちづくり」 → 地域（COMMUNITY）の活力を再生する—

地域社会 = 「子育て環境」を創造するフィールド と考える

1. 地域社会（COMMUNITY）とは何か

2. 地域社会の歴史的変遷

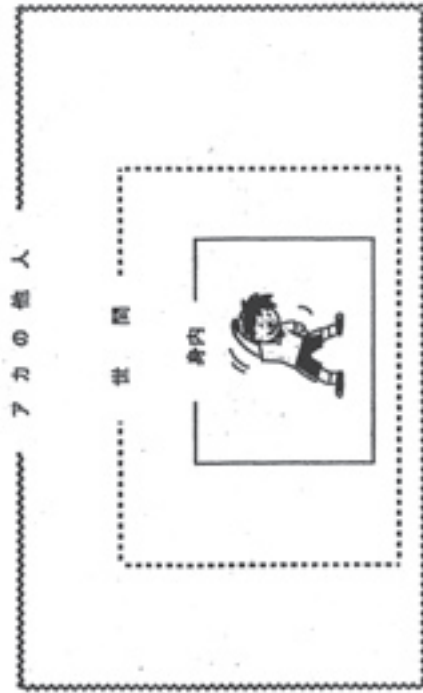
始め人間ギャートルズの時代 → 50年前の社会

地域社会＝ムラ社会の教育力 → 共同体社会の子育て

地域社会の崩壊＝戦後日本の社会

会社型社会の成立 → 学校型社会の成立 → 教育責任の崩壊

3. 子どもにとっての地域社会（COMMUNITY）とは何か



Ⅲ. 学校融合の仕組みを創る → 「地域の教育力」の再生をめざして—

- ☆学校教育を変える新しい原理をみつける

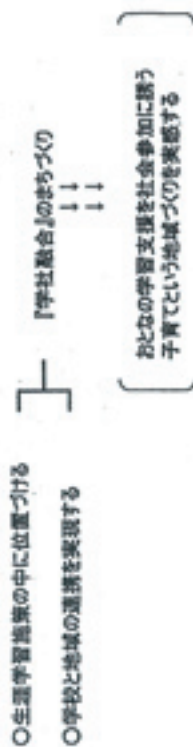
学 社 融 合
= 「教育の主体としての地域の再生原理」という考え方

1. 「学校融合」の意味 → 青少年教育の新たな視点—

- 「教育の主体としての地域の再生原理」という考え方



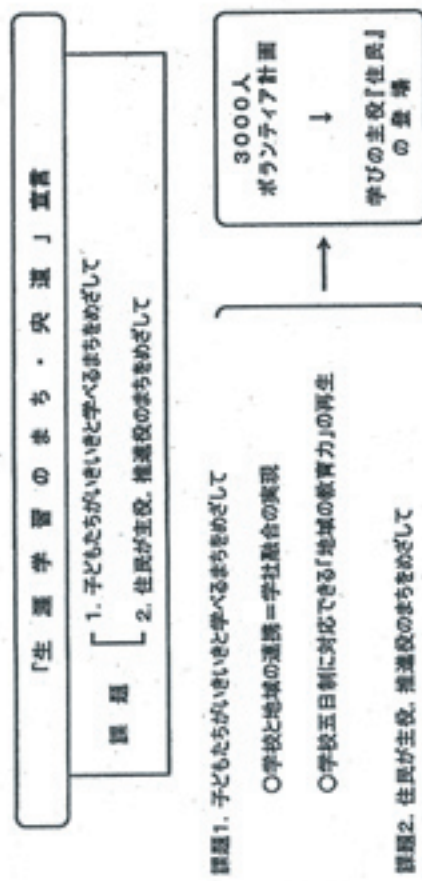
2. 「青少年」を生涯学習推進行敢に位置づける 一地域づくりの仕掛けづくり一



IV. 「住民による生涯学習の自己組織化」を実現する

1. 事例： 矢道町の学社融合の取り組み

21世紀を目前にして、矢道町では、教育行政の課題を「新しい世紀を担うひとづくり」ととらえた。



2. 学社融合は地域社会の教育をどう変えるか

- (1) 子育ての共同化、社会化への展望を開く 一「階差し」の再生一
- (2) 家庭、地域の教育力の点検 一学校教育体制の転換一
- (3) 学校教育の構造改革、憲法改革、行動改革

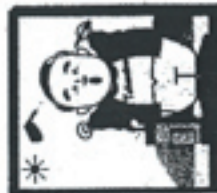
(4) 住民の生涯学習活動の支援

(5) ボランティアがもたらす効果 一「地域の教育力の向上」という地域づくり一

3. 「生涯学習ボランティア」が生みだす地域の活力 一「有償」ボランティアの組織化一

- (1) 「ボランティア」という名の生涯学習を支援する
- (2) 住民の生涯学習活動の支援への展望を開く
- (3) ボランティアがもたらす効果 一「地域の教育力の向上」という地域づくり一

V. おわりに 一地域教育をコーディネートする一



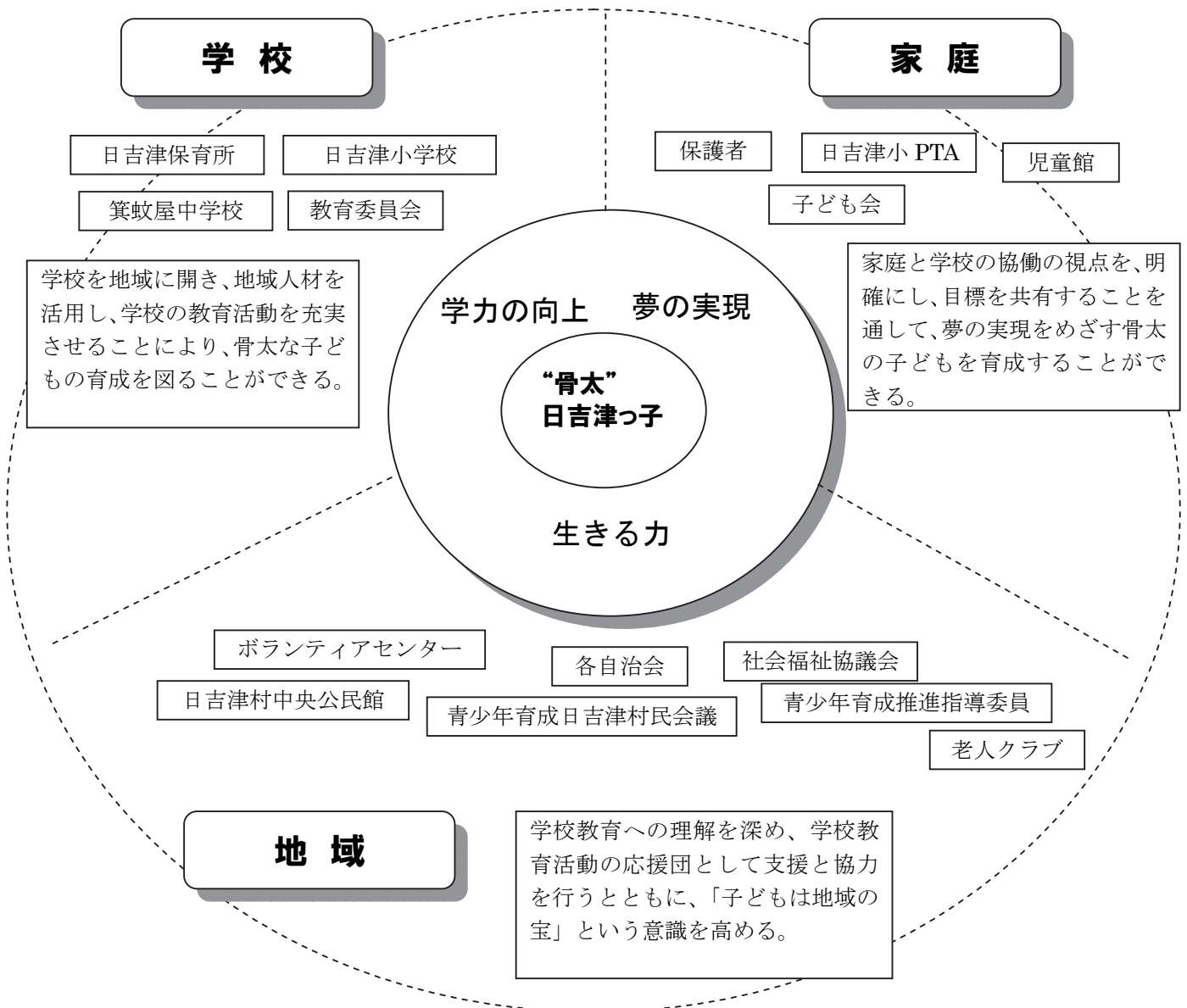
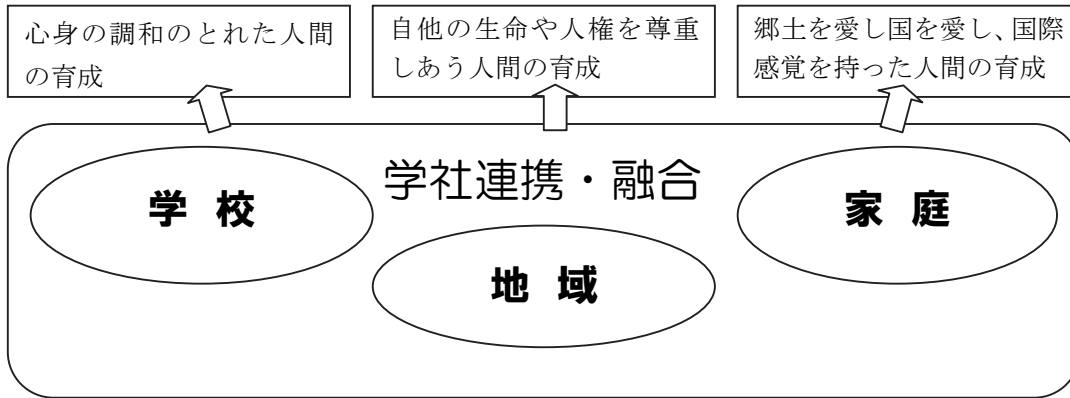
高岡研究室ホームページのトップページは「学社融合のまちづくり」

<http://www.lpc.shimane-u.ac.jp/syogai/>

E-mail takaka@mable.ne.jp

“骨太” 日吉津っ子の育成 (案)

《子育て、教育目標》



「子育てフォーラム in ひえづ」のご案内

家庭・地域・学校が協働する
子育て村,「日吉津」を創ろう

☆☆☆ 特色ある学校づくり・地域づくり推進事業 ☆☆☆

主催 日吉津村教育委員会, 日吉津小学校, 日吉津小学校PTA
日吉津村学社連携推進事業研究会
共催 鳥取県教育委員会西部教育事務所

★「子育てフォーラム in ひえづ」開催の趣旨とお誘い★

実りの秋も間近, 日吉津小学校にも元気な子どもたちの声が響いています。

さて、子育て真っ最中の日吉津小学校 PTA 会員の皆様をはじめ、村内の教育関係者が一堂に集い「子育てフォーラム in ひえづ」を計画しました。未来の日本と日吉津村をになう子どもたちの教育を考える場としたいと思います。

現代は子育てが難しい時代といわれます。確かに、子どもたちを取り巻く環境は決して良好とはいえません。だからこそ、未来をになう子どもたちの教育に関わる私たちおとなが子育てについて真剣に考え、行動することが大切です。

幸い、わが日吉津村は、豊かな自然と人情にあふれた地域社会に恵まれています。この優れた環境を生かして、現代社会が忘れてしまった地域の紐帯(むすびつき)、子育てに関する共同意識を改めて再発見し、家庭、地域、学校が協働する子育て社会を再生させたいと考えました。

今回のフォーラムでは、まず、島根大学教授高岡信也氏を迎え、子育て講演会を行います。さらに、参加者全員で、「ひえづの子育てを考える ～家庭、地域、学校の協働を実現するために～」をテーマに、「わいわい、がやがやワークショップ」を開催いたします。

土曜日の開催ですが、お繰り合わせの上多くの皆様に参加いただきたく、お待ちしております。

日 時 : 平成 17 年 10 月 22 日 (土 曜 日)

13 時 00 分 ～ 16 時 00 分

会 場 : 日吉津村中央公民館

日 程

(受付 12:45～)

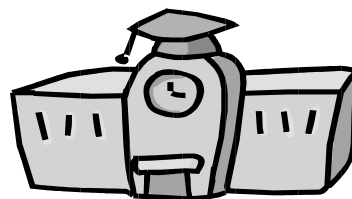
13:00 ～ 13:10 開 会

13:10 ～ 14:00 子育て講演 島根大学教育学部 高岡信也 先生
『学社融合で「豊かな子育て村 日吉津」をめざそう
～家庭, 地域, 学校が協働する「子育て共同体」を創る～ 』

14:00 ～ 14:15 休 憩

14:15 ～ 15:50 ワークショップ「わいわい, がやがや ひえづの子育てを考える」
指導講師 高岡信也 先生

15:50 ～ 16:00 閉 会



<島根大学教育学部 高岡信也 先生のプロフィール>

<略歴>

昭和58年4月 島根大学教育学部赴任 講師、助教授を経て、平成14年10月から現職

平成 9年 日本生涯学習教育学会会長賞受賞

平成10年～平成14年 放送大学客員教官(島根学習センター)担当

平成11年1月～14年3月 宍道町教育長として「生涯学習のまちづくり」を推進

<社会的活動>

★島根県生涯学習審議会委員

★21世紀の公民館づくり推進委員会委員長

★松江市生涯学習大学運営委員会委員

★平成16年～18年「日吉津村学社連携・融合推進事業」スーパーバイザー

「子育てフォーラム in ひえづ」参加申込書

○氏 名	_____	電話	_____
○住 所	_____		
○所 属	_____		
○申込先	日吉津村教育委員会	27-0211	
	日吉津村中央公民館	27-0606	
	日吉津小学校	27-0230	

子育てフォーラム in ひえづ

家庭・地域・学校が協働する 子育て村、「日吉津」を創ろう

☆☆☆特色ある学校づくり・地域づくり推進事業☆☆☆

- ★主 催 日吉津村教育委員会，日吉津小学校，日吉津小学校PTA
日吉津村学社連携推進事業研究会
- ★共 催 鳥取県教育委員会西部教育事務所
- ★期 日 平成17年10月22日（土）
- ★場 所 日吉津村中央公民館

日 程

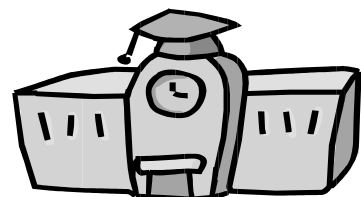
13:00 ～ 13:10 開 会

13:10 ～ 14:00 子育て講演 島根大学教育学部 高岡信也 先生
「学社融合で「豊かな子育て村 日吉津」をめざそう
～家庭，地域，学校が協働する「子育て共同体」を創る～」

14:00 ～ 14:15 休 憩

14:15 ～ 15:50 ワークショップ「わいわい，がやがや ひえづの子育てを考える」
指導講師 高岡信也 先生

15:50 ～ 16:00 閉 会



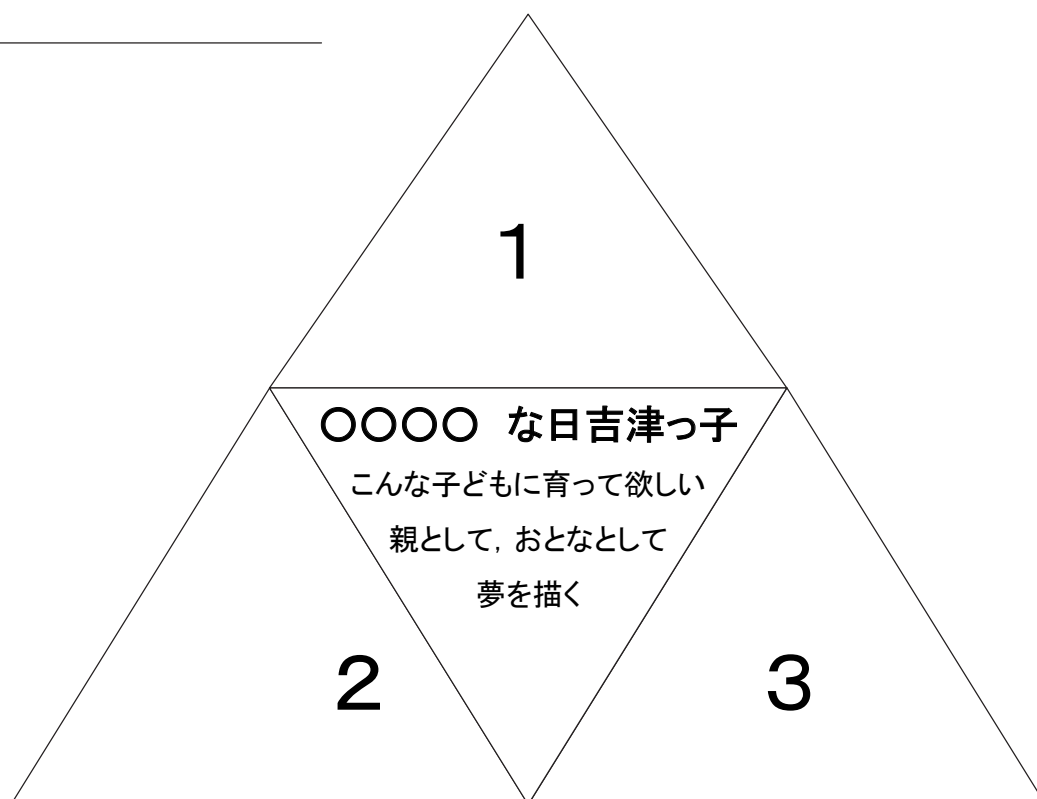
ワークショップシート 地域で育てる日吉津っ子

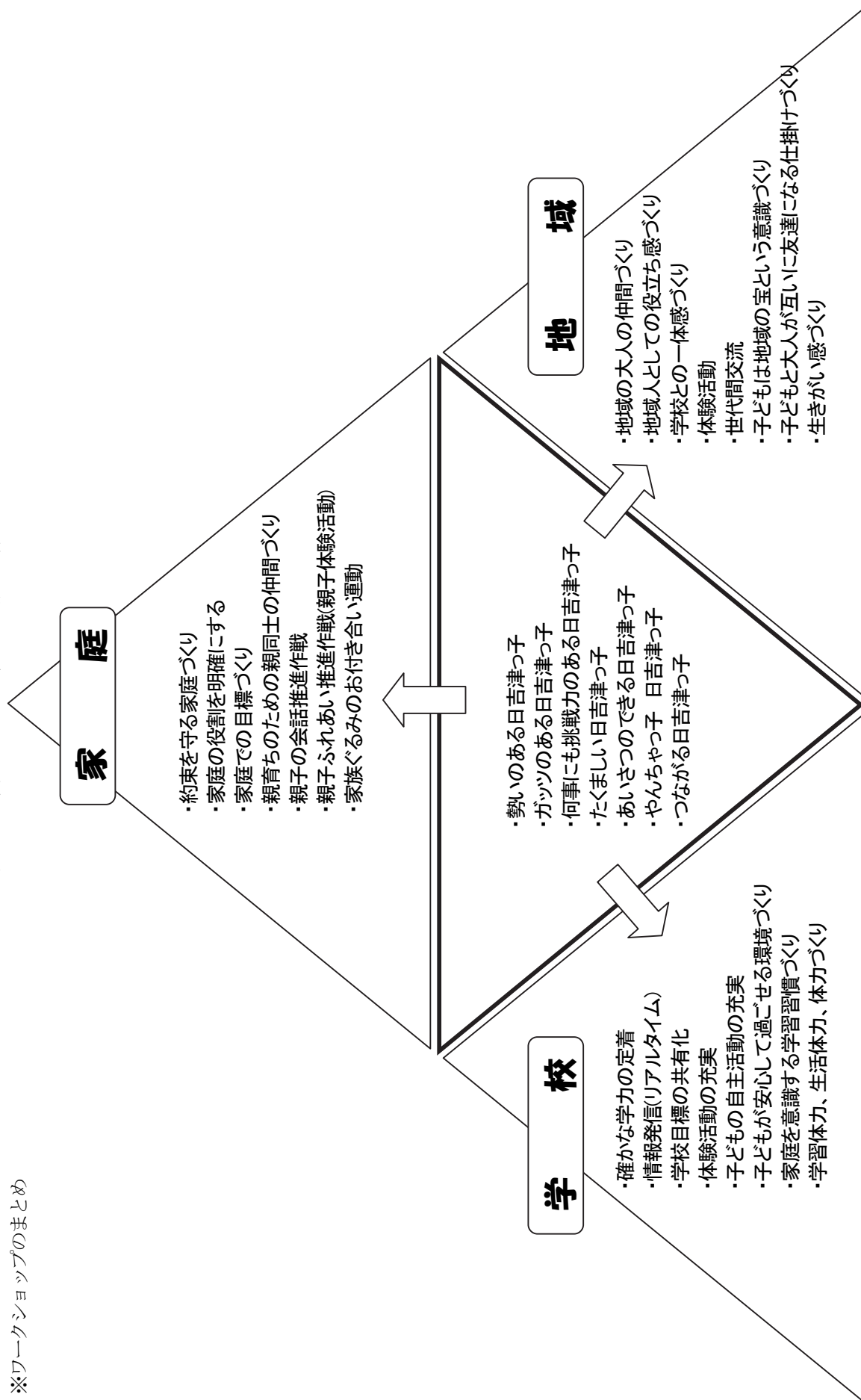
グループ

氏 名

シートの記入は

1. 中心の△を考える
2. 中心の△を支える要素, 3項目を考える





ガ ッ ツ 「GUTS 日吉津っ子」の子どものイメージ

ガッツ : 広辞苑では, 「元氣, 根性」。
GUTS : ①勇氣, 氣力, 体力, スタミナ。
②忍耐力, 持久力。
③中身, 本質, 真髓。のことです。

全体イメージ図

☆「骨太」子育て

☆「生きる力」

G

「がんばる子ども」

何事にもチャレンジし, へこたれない, 目標に向かってがんばる子ども

ガ ッ ツ

「GUTS 日吉津っ子」

を育む

U

「ゆったり育っ子ども」

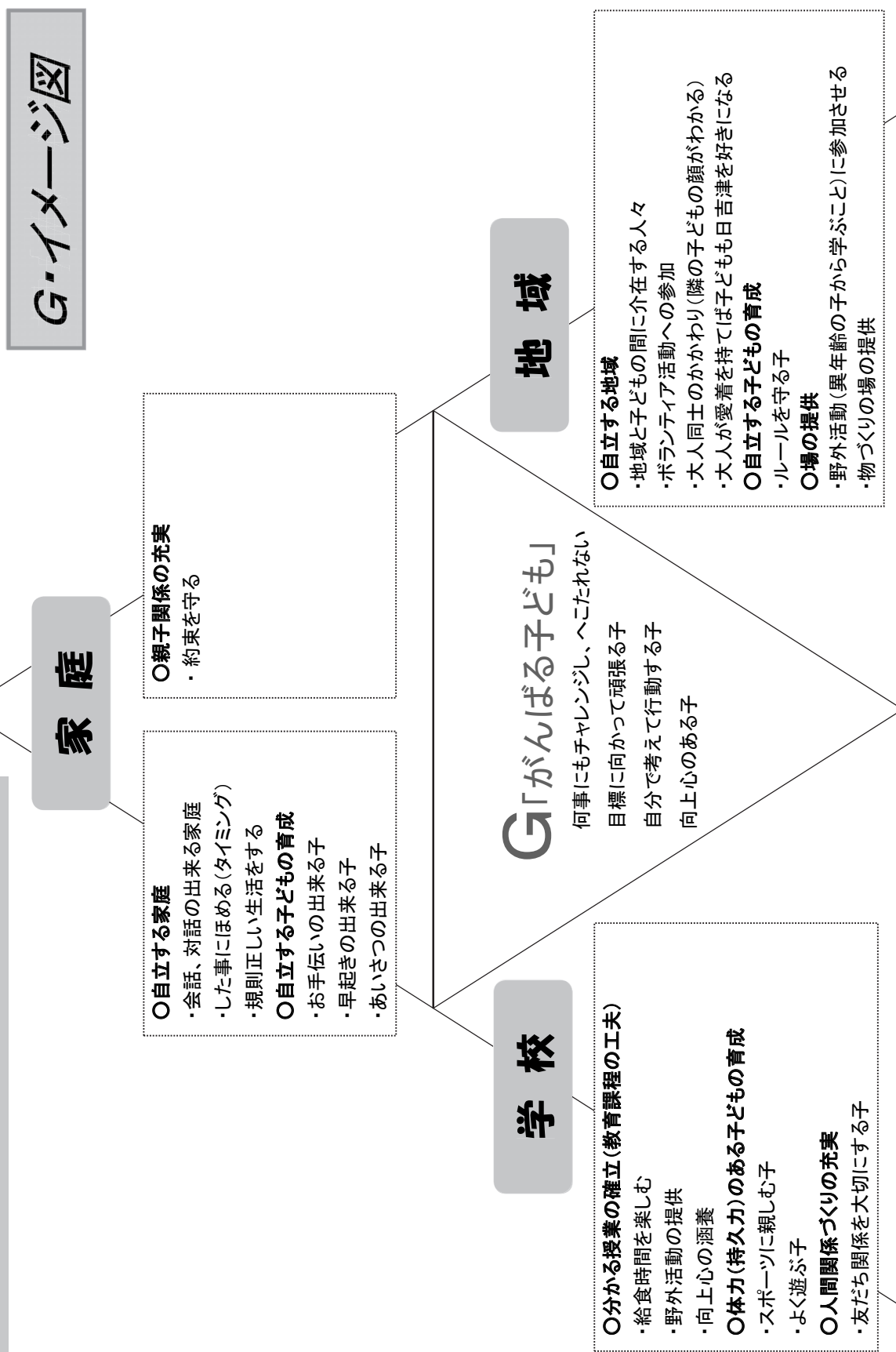
豊かな自然と地域の愛情に包まれ, のびのびと育っ子ども

T

「たくましい子ども」

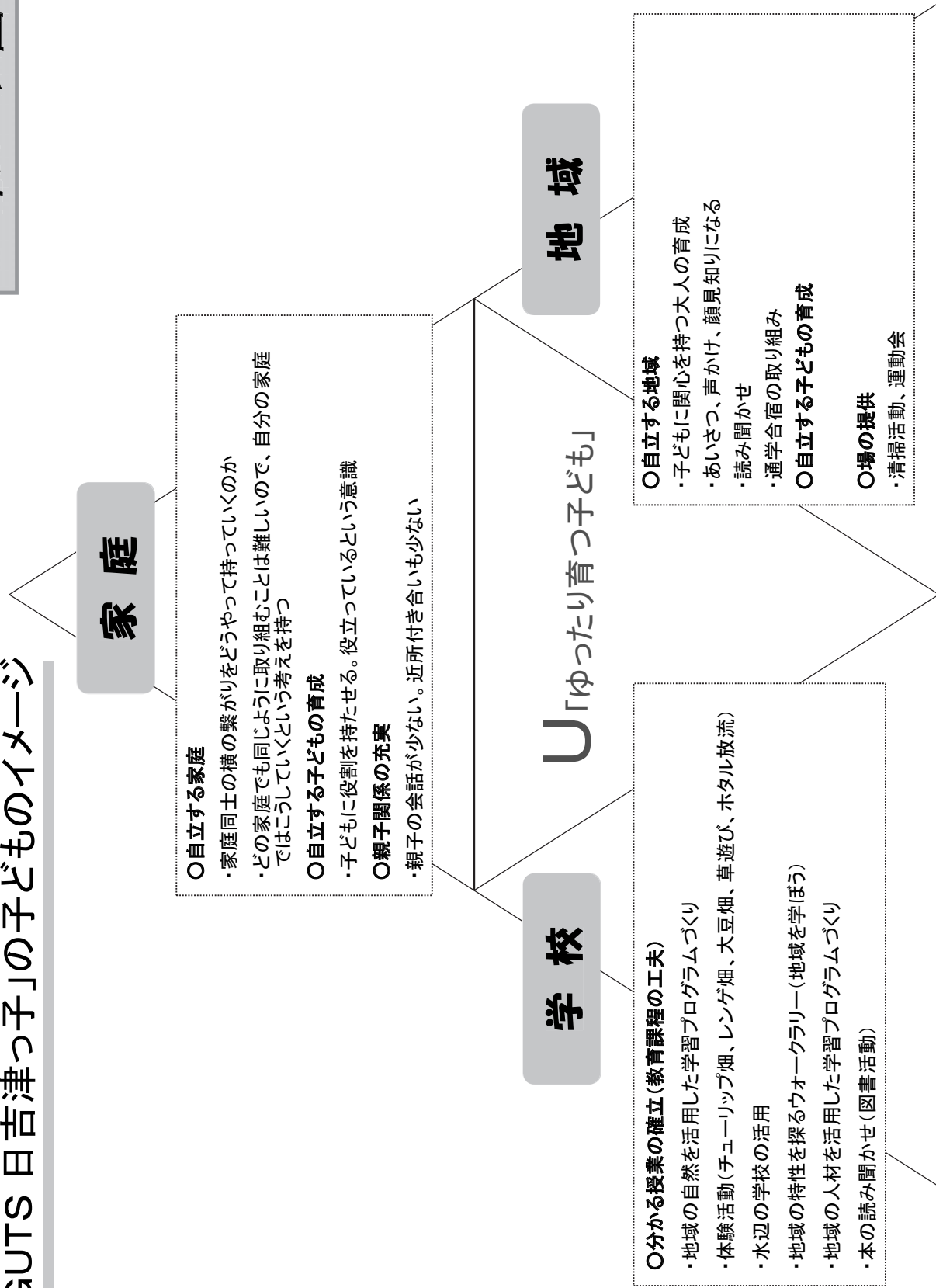
困難を克服する忍耐力と健康な体を持つ子ども

ガッツ「GUTS 日吉津っ子」の子どものイメージ



「GUTS 日吉津っ子」の子どものイメージ

U・イメージ図



「GUTS 日吉津っ子」の子どもイメージ

T・イメージ図

家庭

○自立する家庭

- ・基本的生活習慣の確立
- ・食事、睡眠、あいさつ
- ・家族の会話
- ・自立する家庭 10 か条作成

○自立する子どもの育成

- ・家庭での仕事（家族の一員という自覚）
- ・あいさつ

○親子関係の充実

- ・親子読書（家庭で読書）
- ・親子の約束
- ・親子で活動（親子体験－日野川の活用）

○家族で心を育てる

- ・やさしさ、たくさしさ、思いやりを実感できる場面をつくる

学校

○分かる授業の確立

- ・基礎基本の定着
- ・楽しい、おもしろいと思える授業の工夫
- ・見通しのもてる授業

○体力(持久力)のある子どもの育成

- ・朝読書の継続
- ・体力テストの分析
- ・学校生活の基礎基本の定着（あいさつ、掃除、返事、姿勢）
- ・朝遊びの推進
- ・食に関する指導の充実（給食指導等の充実）

○人間関係づくりの充実

- ・コミュニケーション力を向上
- ・自主、自発的に動ける子どもの育成

T「たくましい子ども」

地域

○自立する地域

- ・子どもに関心を持つ姿大人の育成（地域で子どもと遊ぶ）
- ・地域ぐるみであいさつ
- ・大人同士の会話
- ・自立する地域 10 か条作成（「主役は子どもだ」プロジェクト）
- ・地域の子どもの顔と名前が分かる

○自立する子どもの育成

- ・地域の中の仕事分担（地域の一員という自覚）
- ・あいさつ
- ・地域の大人の顔と名前が分かる

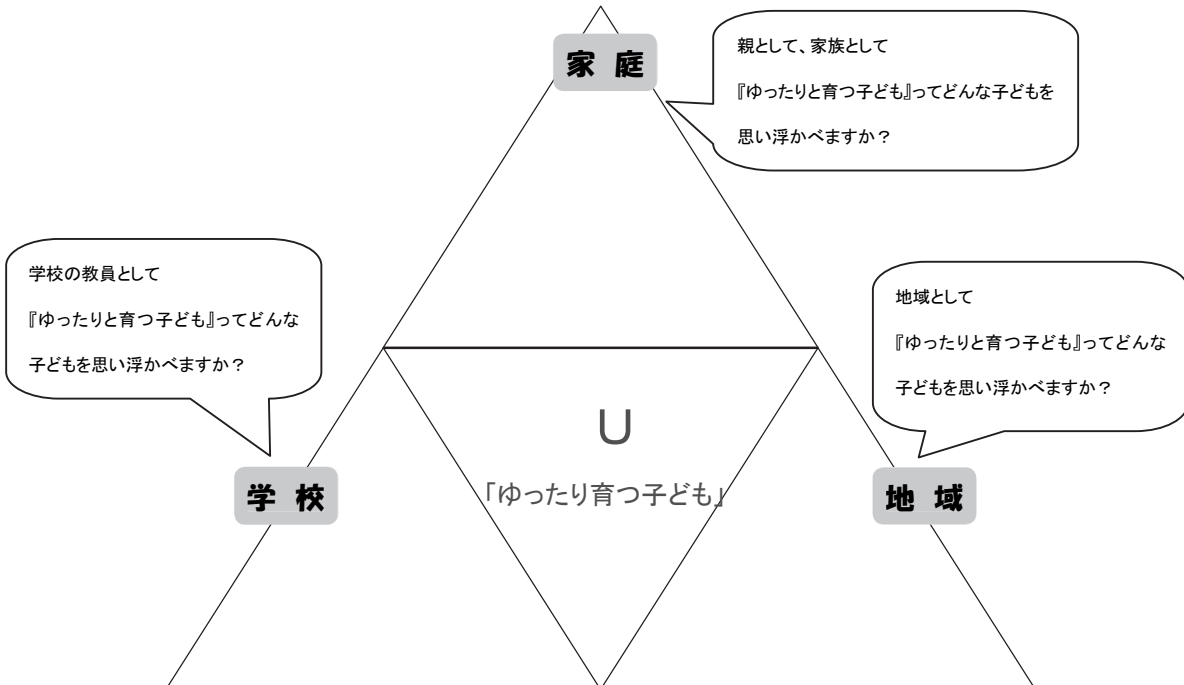
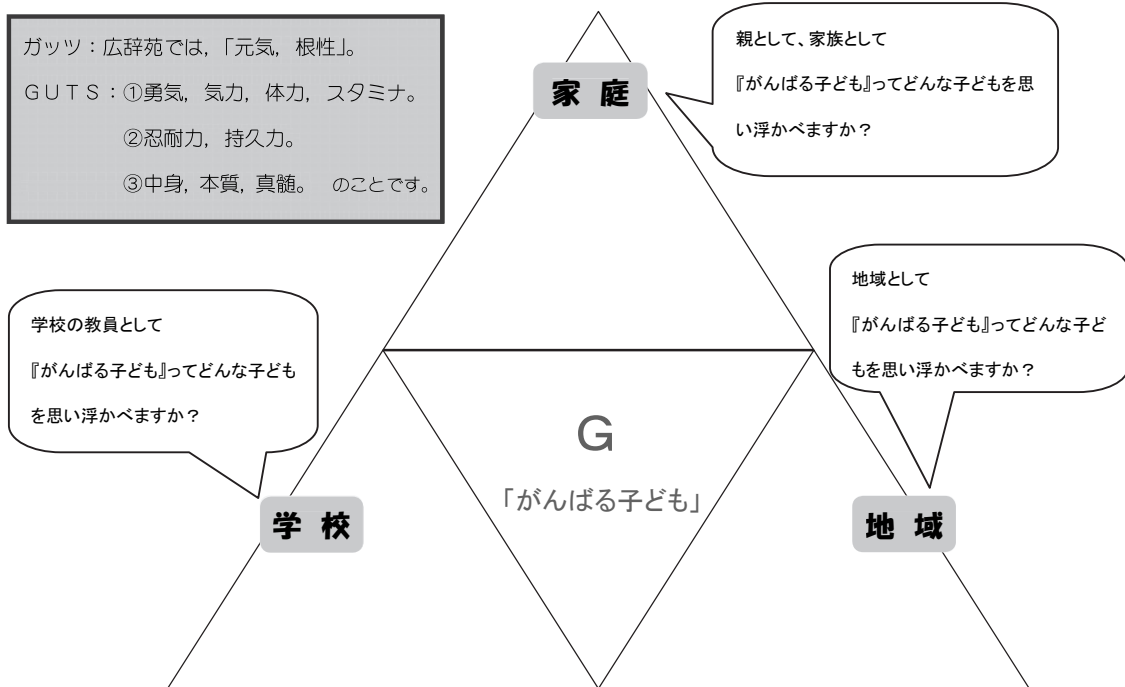
○場の提供

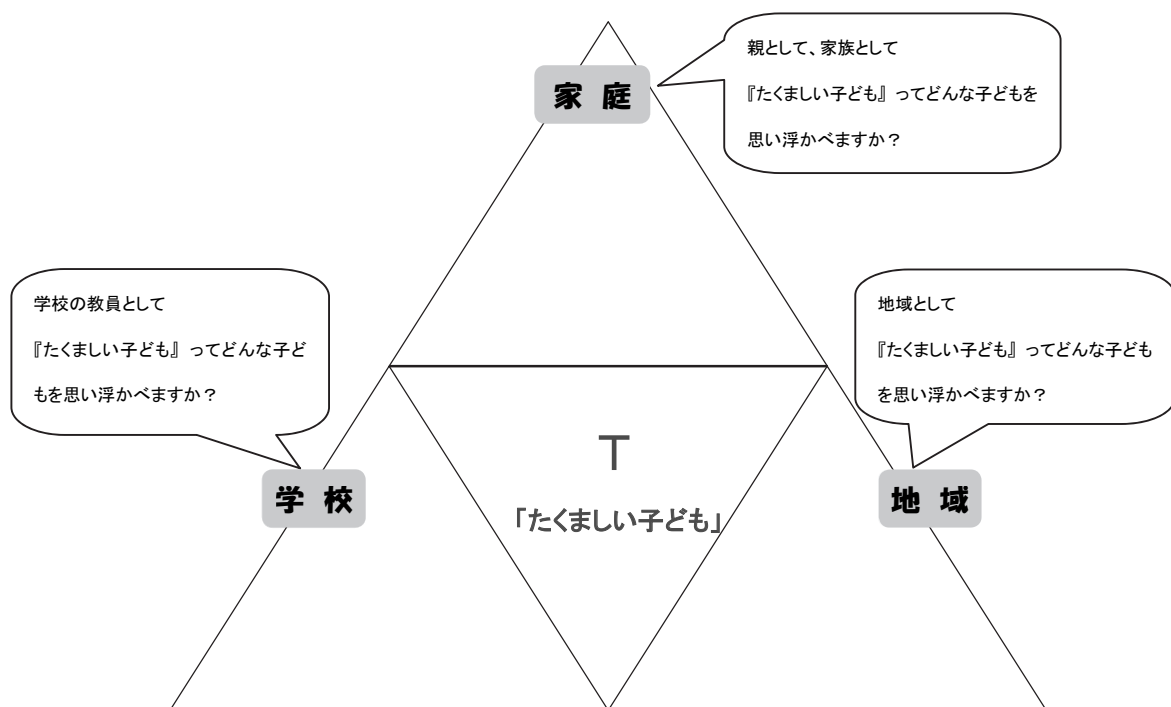
- ・地域の中で子どもの出番を確保する（祭り、子ども会）

【資料⑥-1】

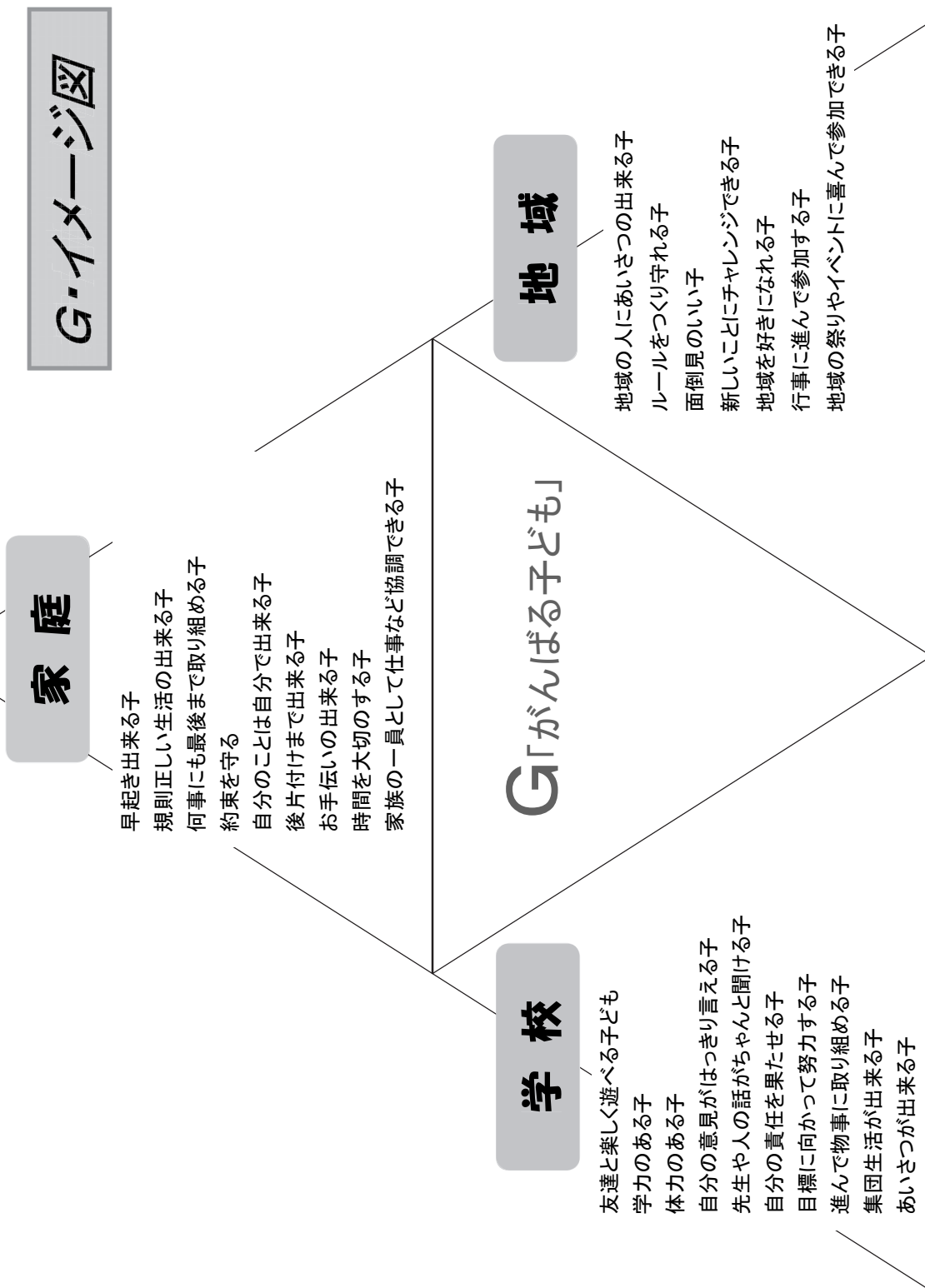
ガ ッ ツ

「GUTS 日吉津っ子」の子どもたちのイメージ



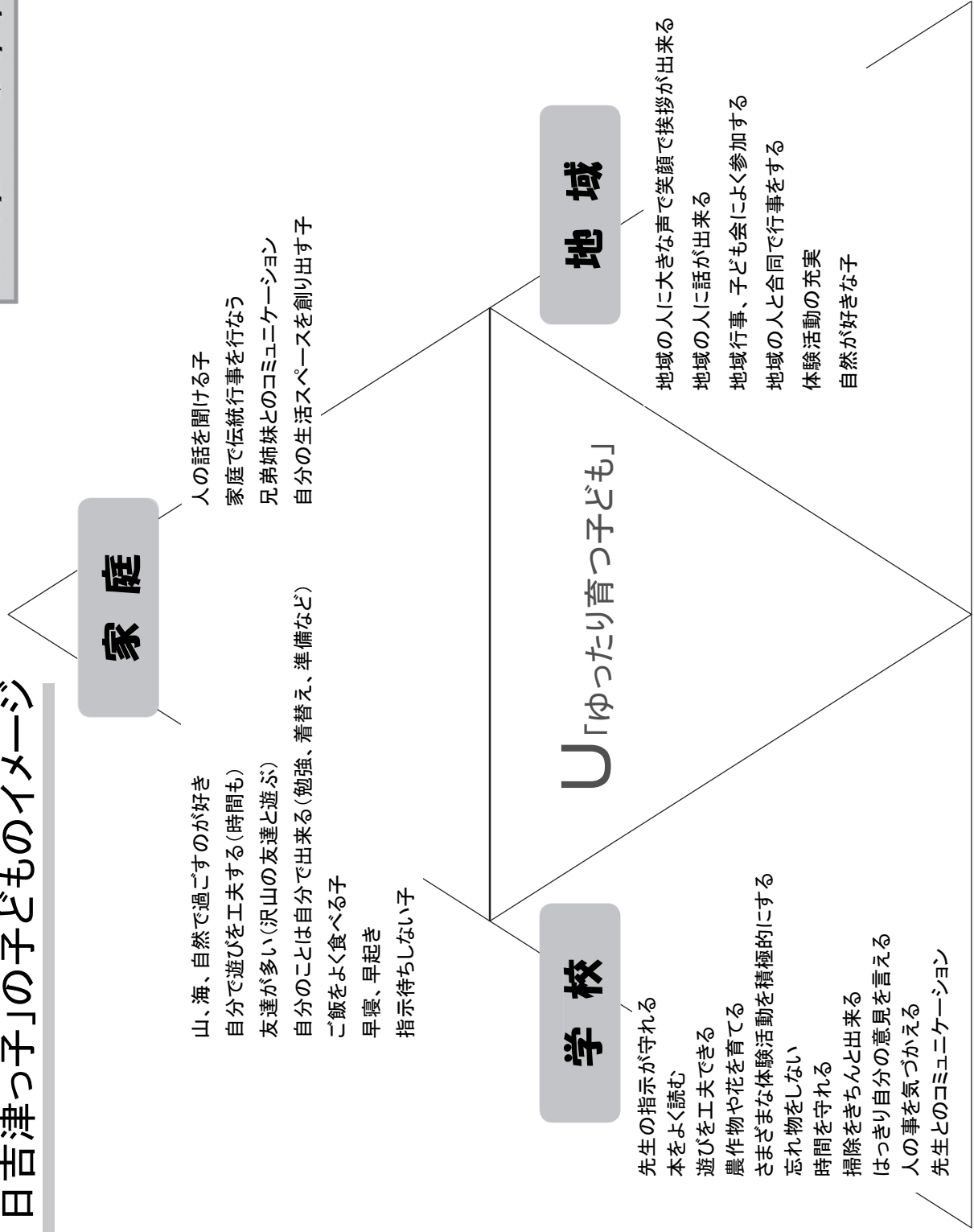


ガッツ「GUTS 日吉津っ子」の子どものイメージ



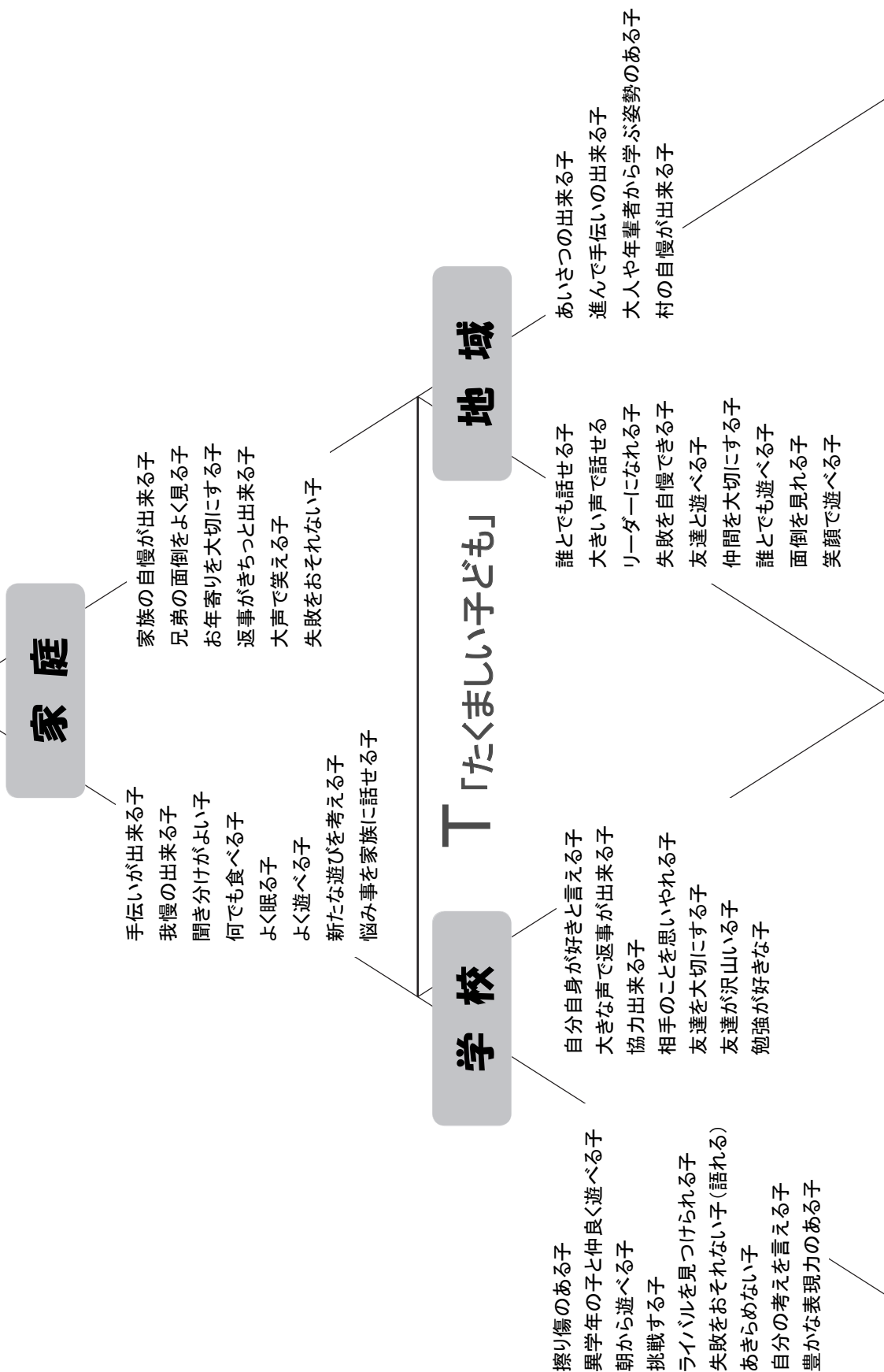
「GUTS 日吉津っ子」の子どものイメージ

U・イメージ図



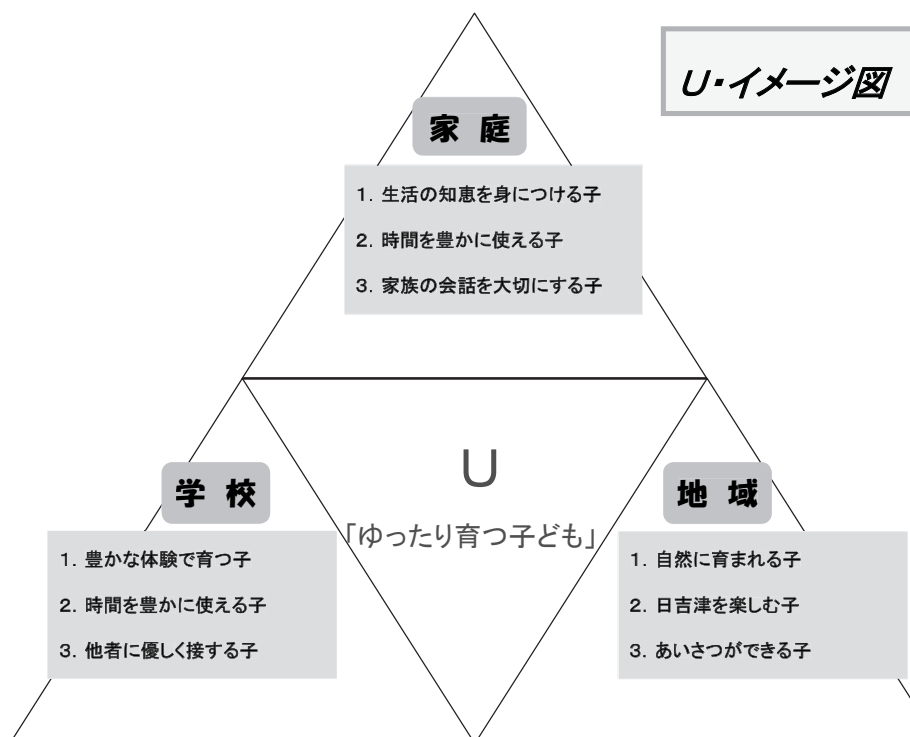
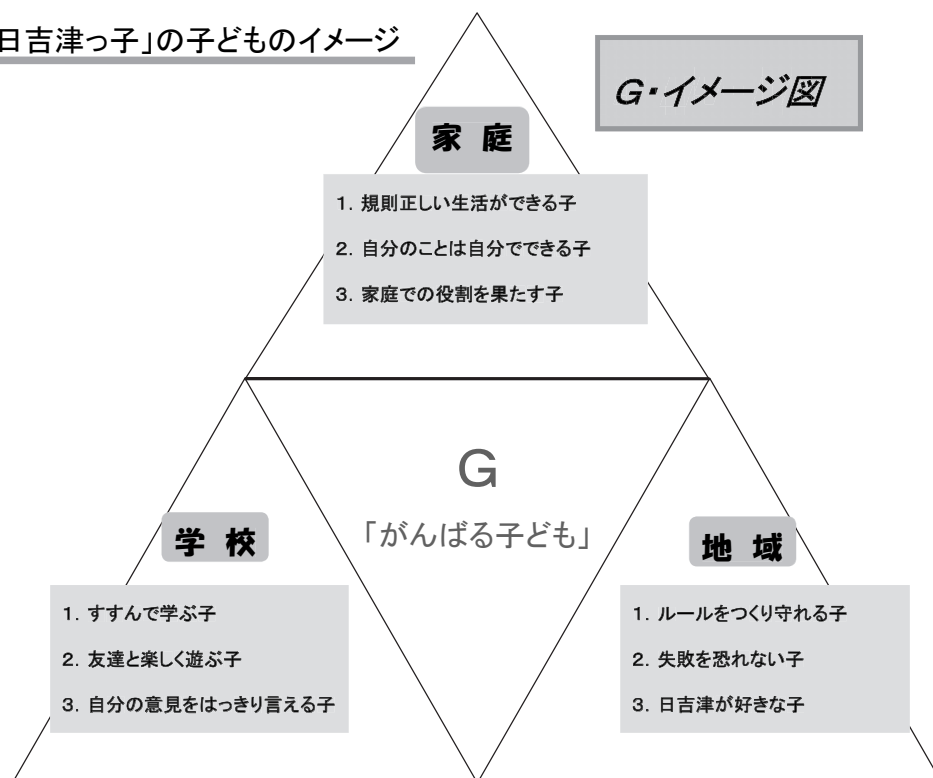
ガッツ「GUTS 日吉津っ子」の子どものイメージ

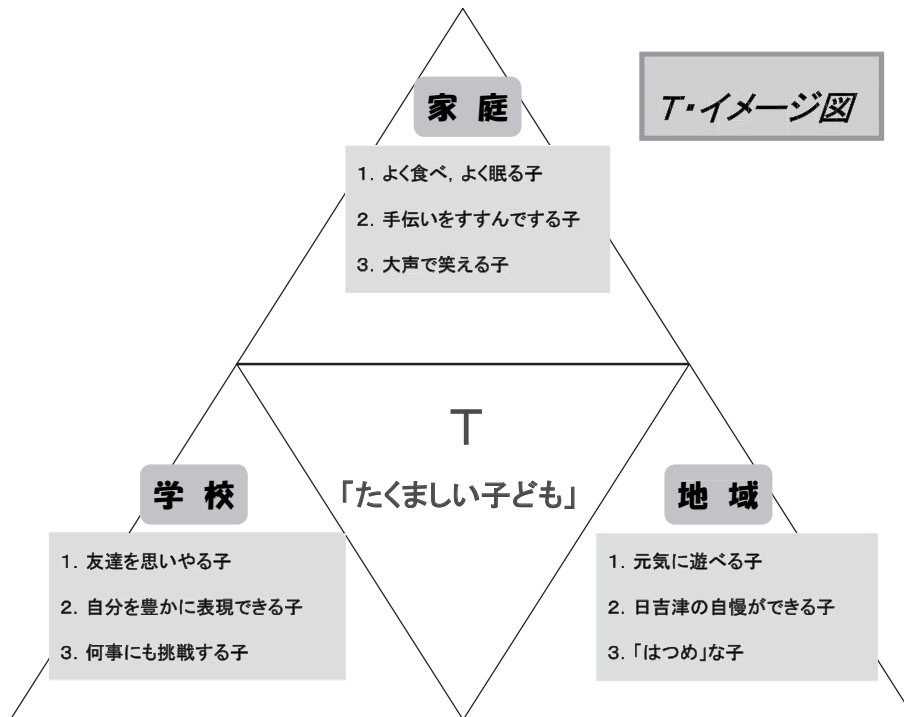
T・イメージ図



ガ ッ ツ

「GUTS 日吉津っ子」の子どもイメージ





ガ ッ ツ

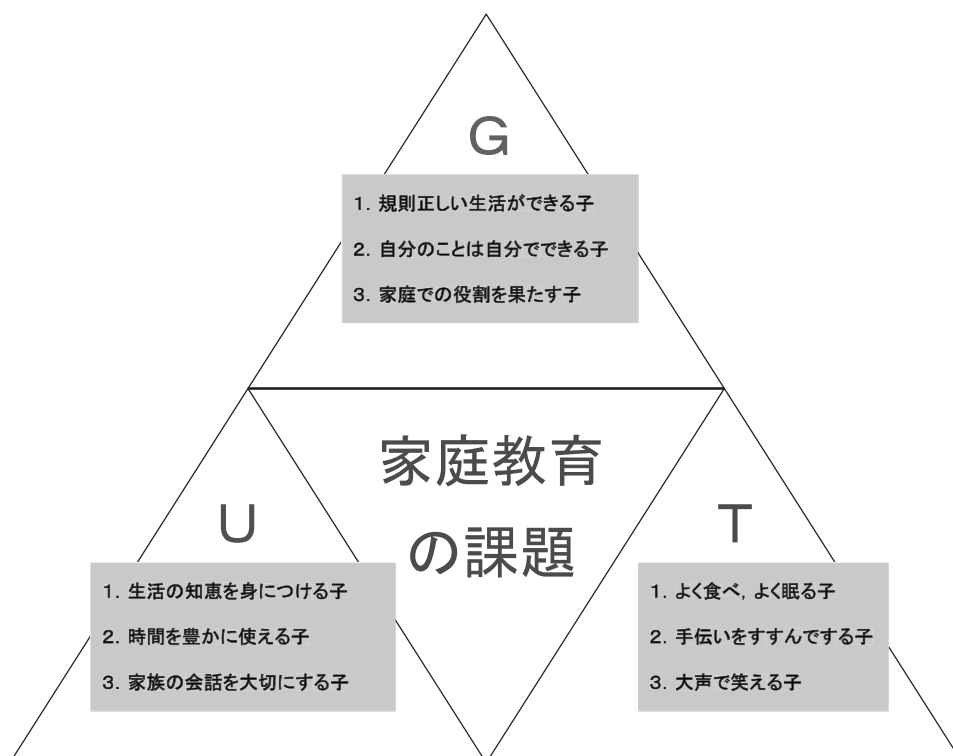
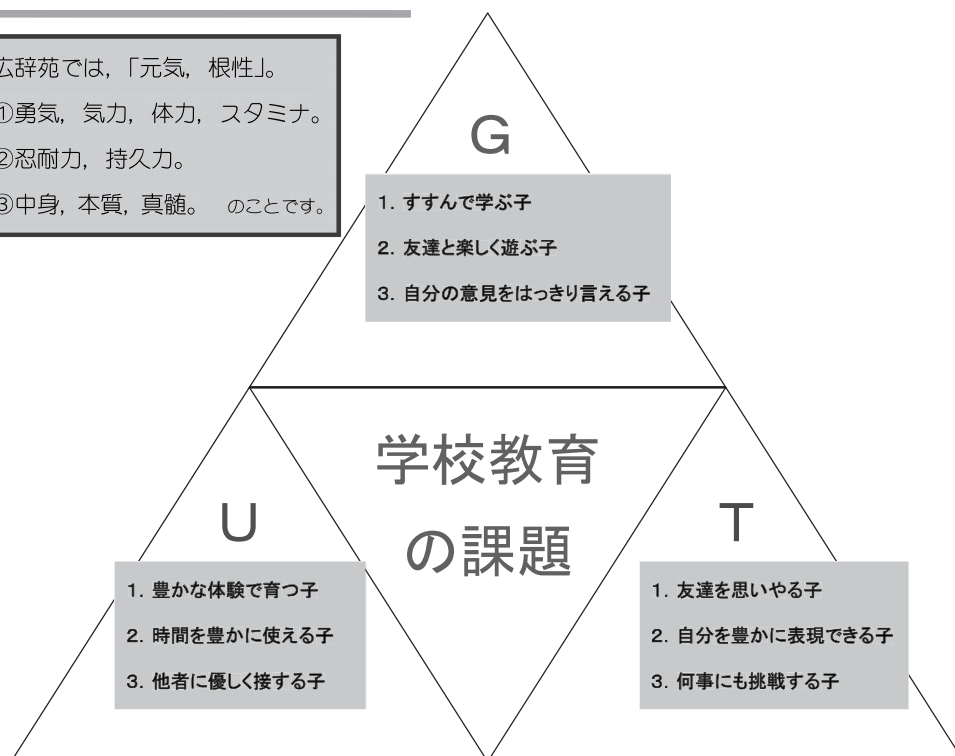
「GUTS 日吉津っ子」の子どもたちのイメージ

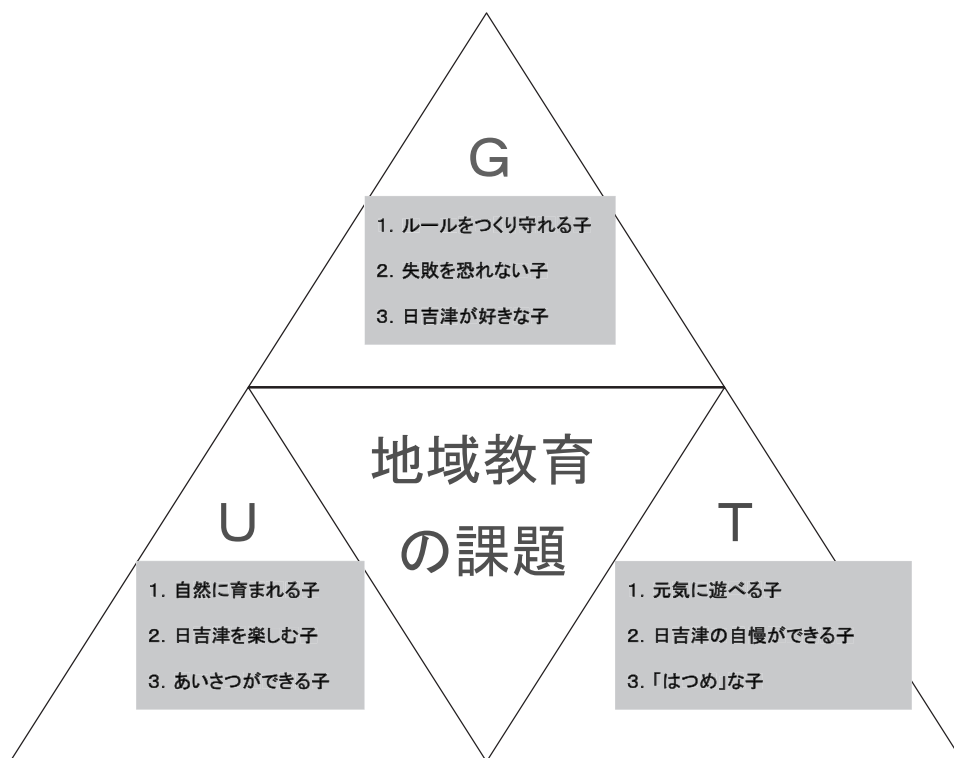
ガッツ： 広辞苑では、「元気、根性」。

GUTS：①勇気、気力、体力、スタミナ。

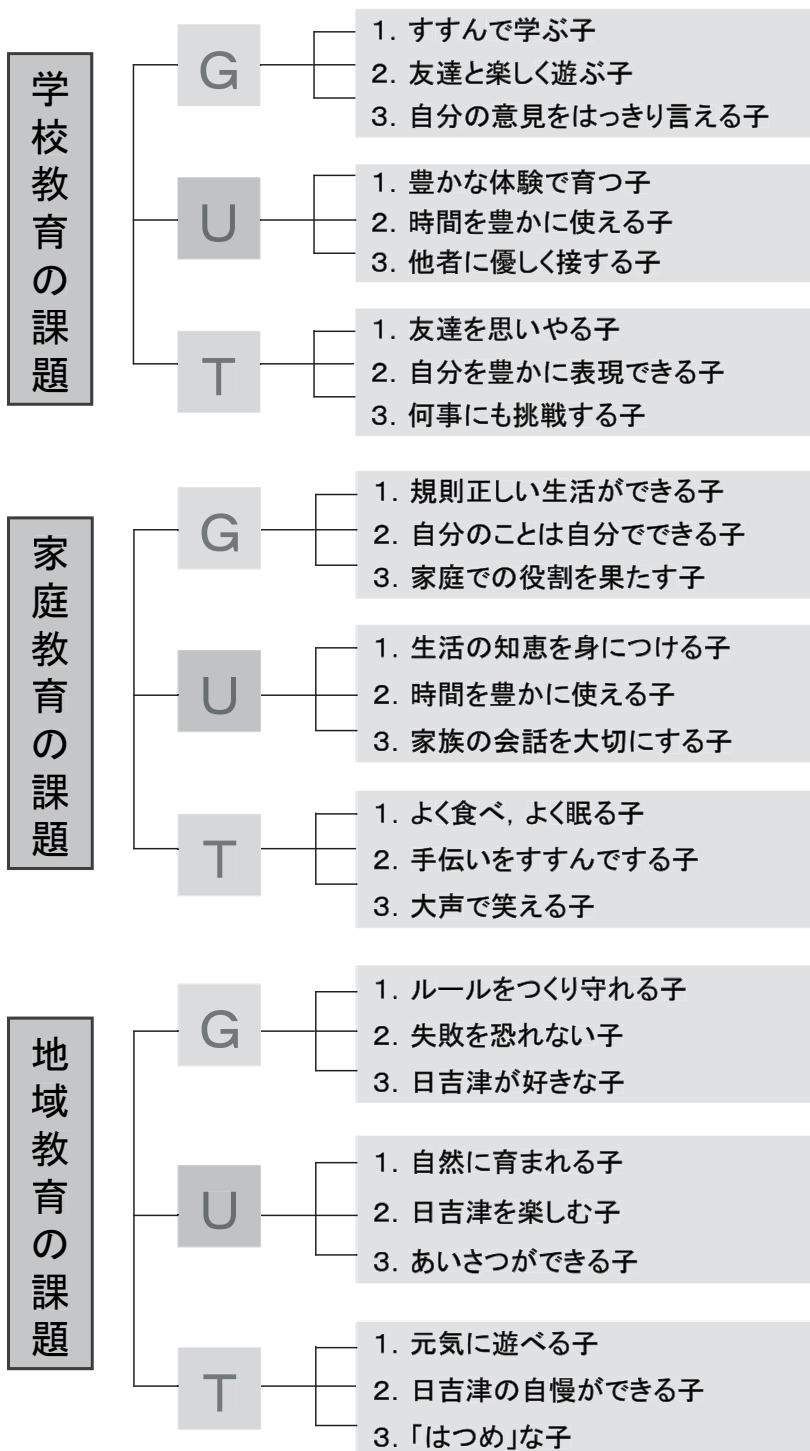
②忍耐力、持久力。

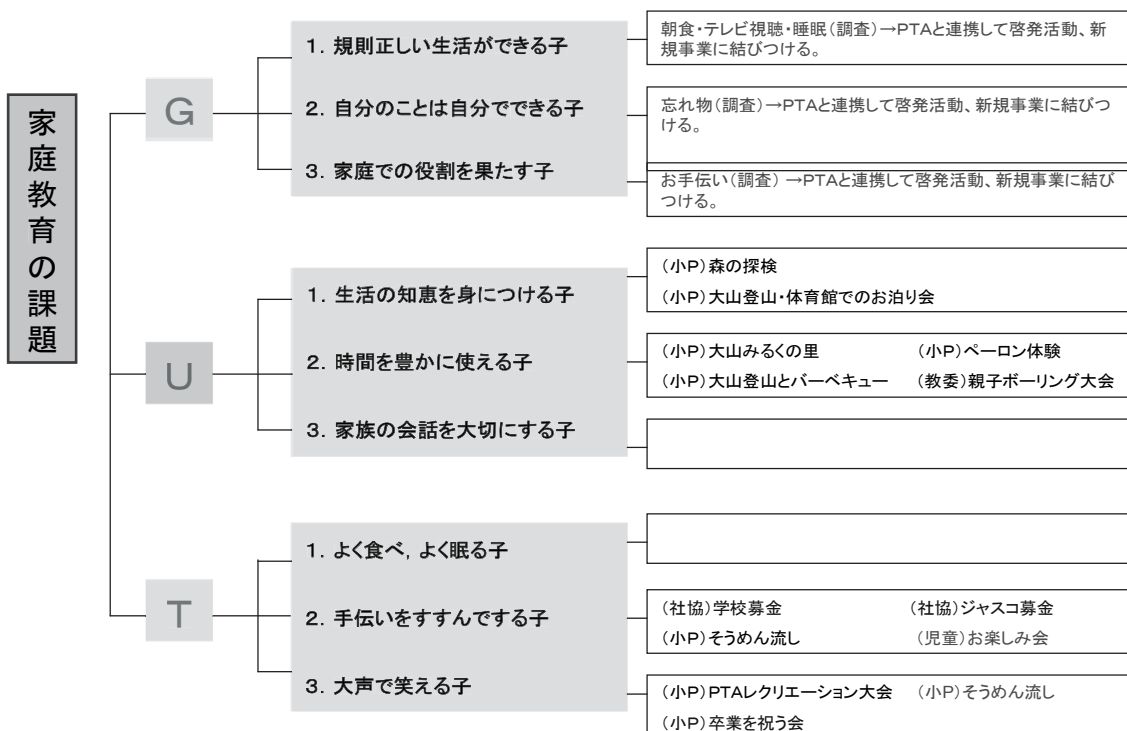
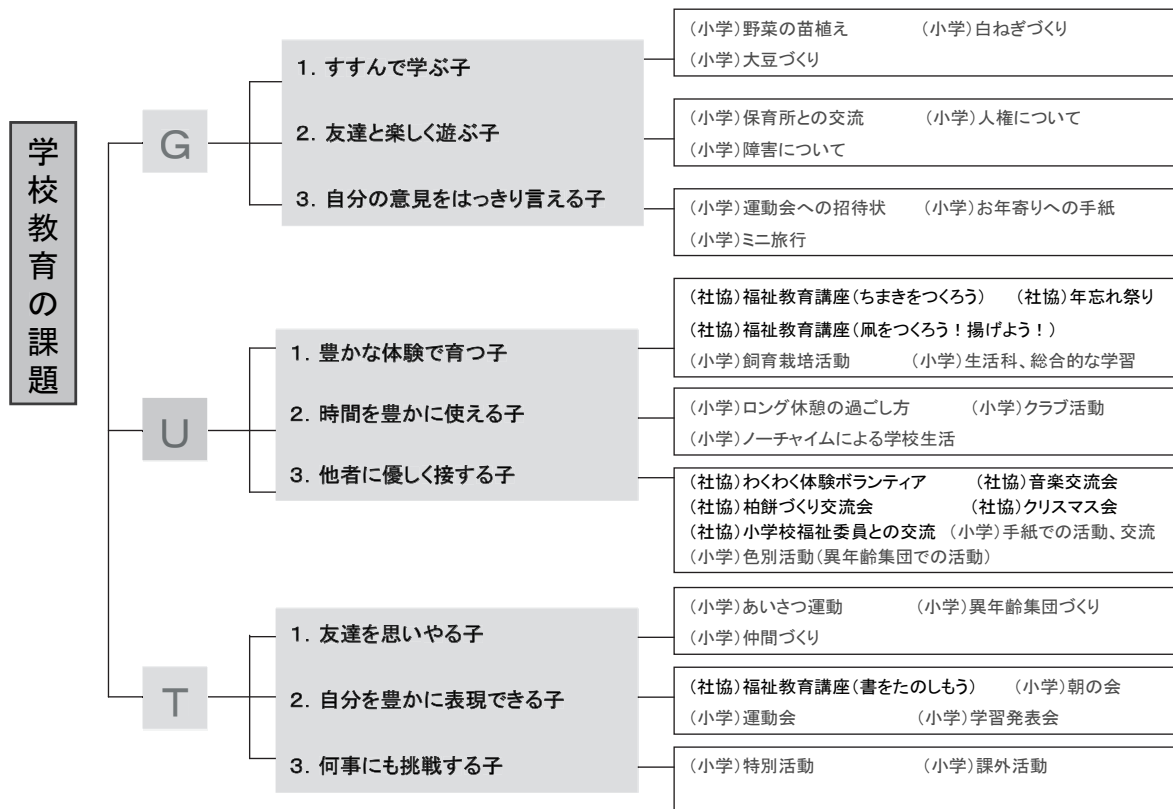
③中身、本質、真髄。 のことです。

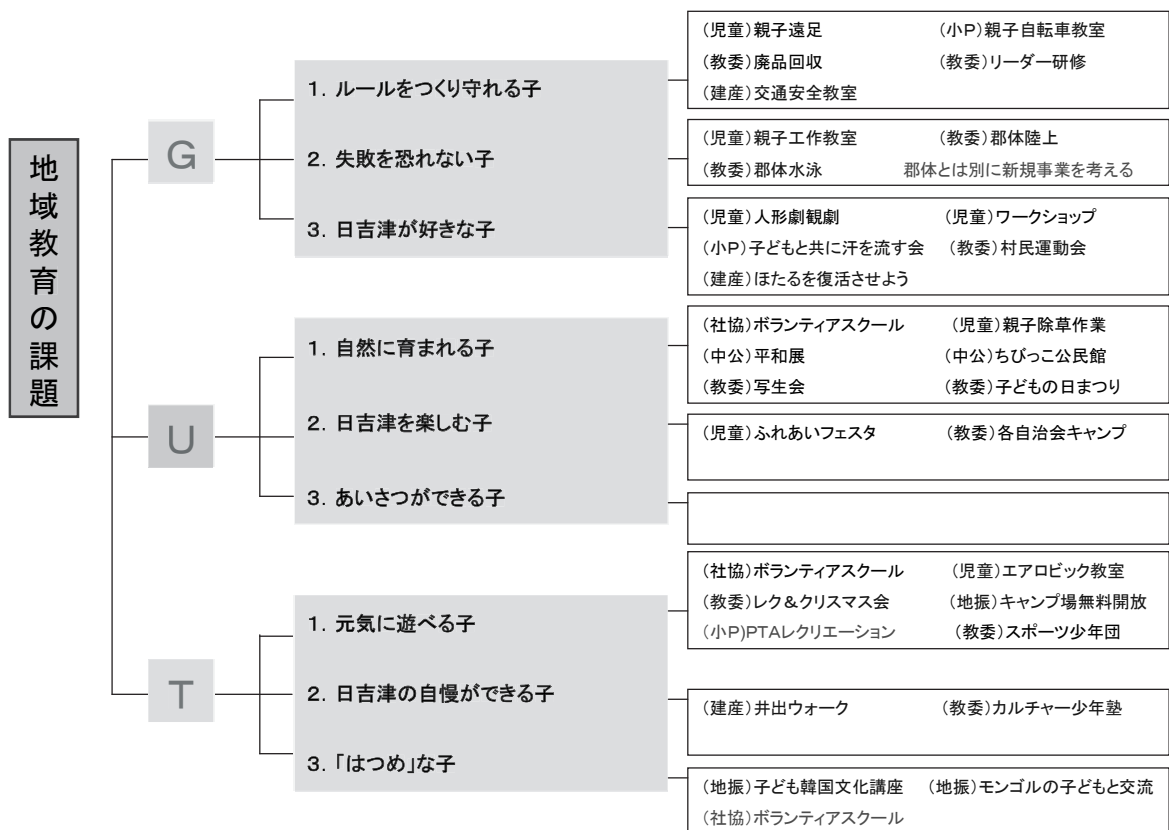


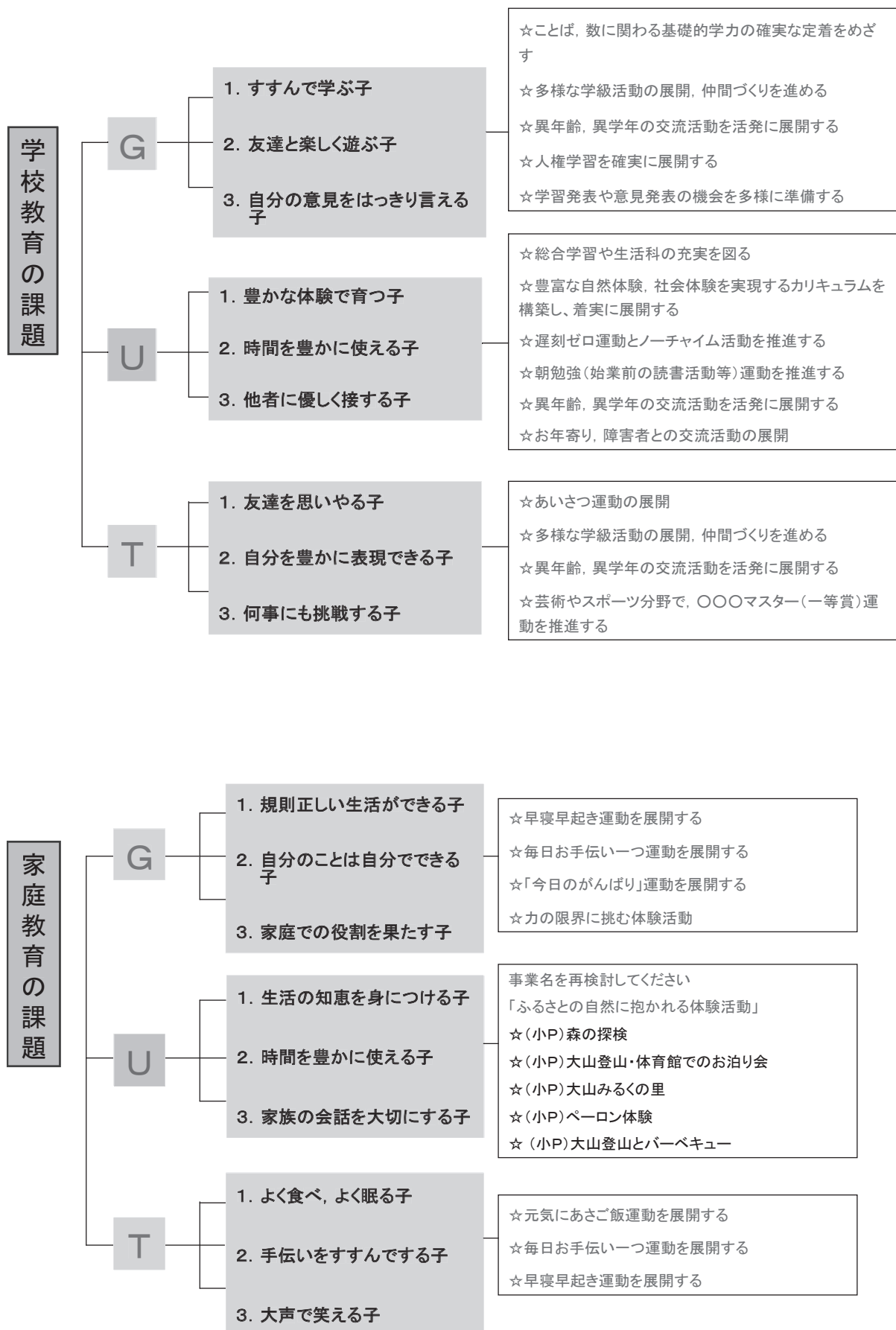


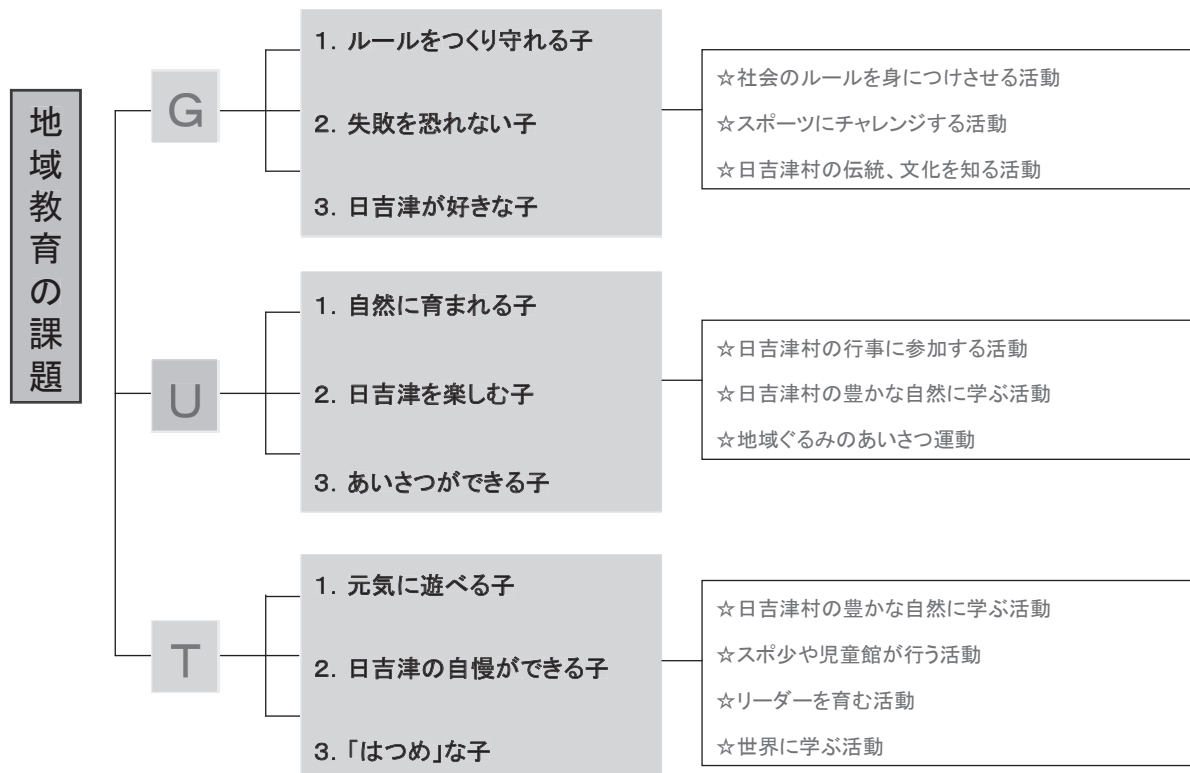
「GUTS日吉津っ子」を育む

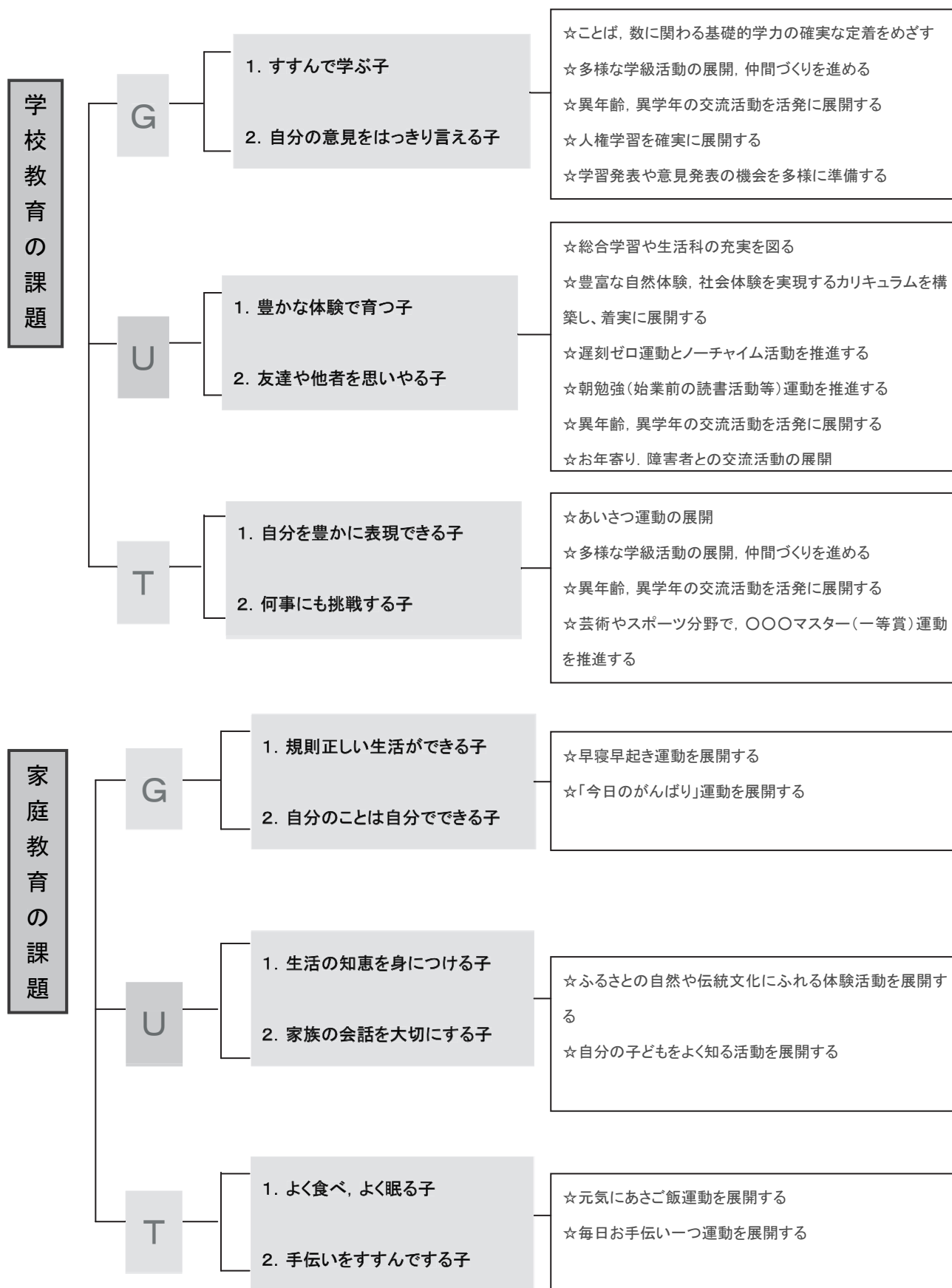


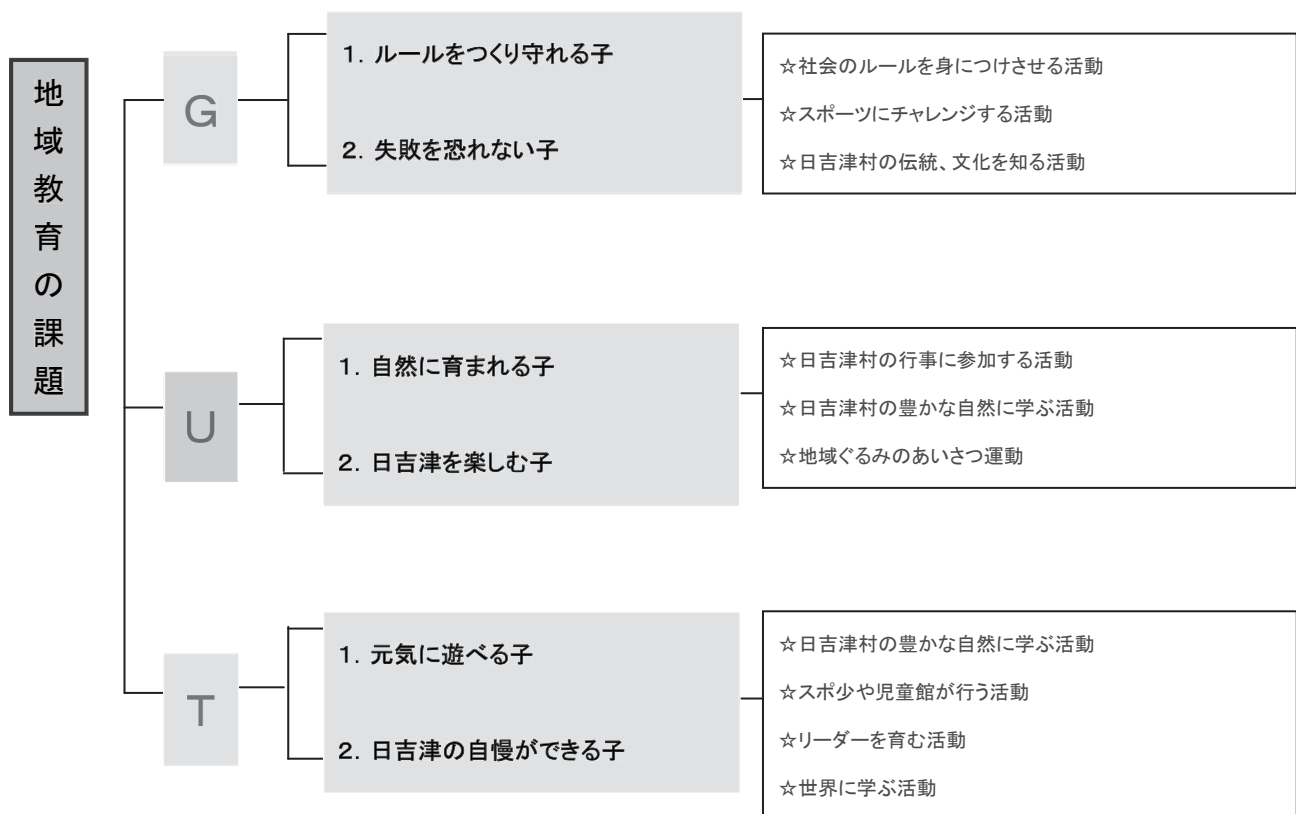






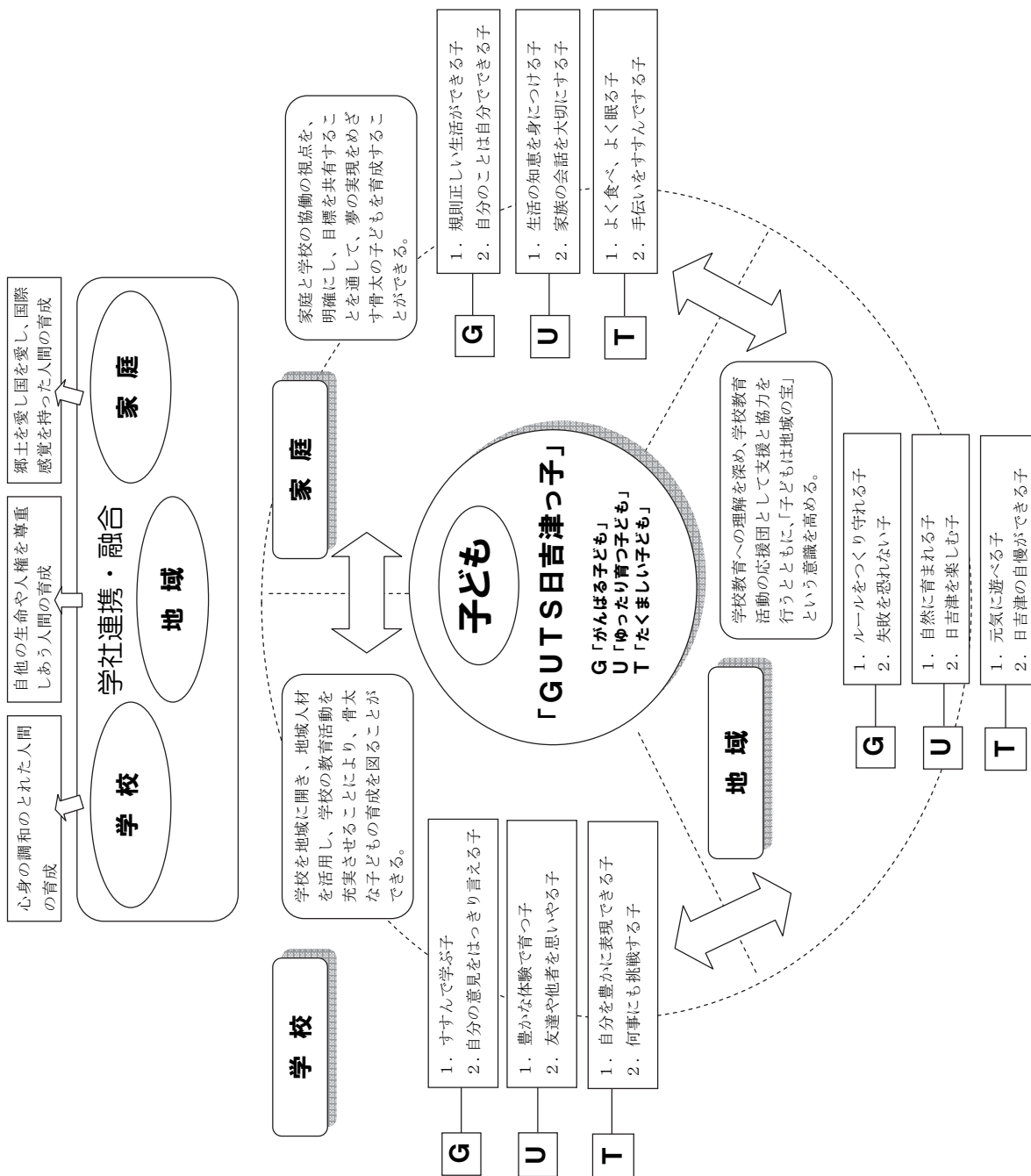






“GUTS 日吉津っ子”の育成 (案)

《子育て、教育目標》



“GUTS 日吉津っ子” 育成イメージ図 ～学校・家庭・地域の協働～

GUTS日吉津っ子

G 「がんばる子ども」

T 「たくましい子ども」

U 「ゆったり育っ子ども」

G

学校
家庭
地域

1. すすんで学ぶ子ども
2. 自分の意見をはっきり言う子ども
1. 規則正しい生活をする子ども
2. 自分のことは自分でする子ども
1. ルールをつくって守る子ども
2. 失敗を恐れない子ども

T

学校
家庭
地域

1. 自分を豊かに表現する子ども
2. 何事にも挑戦する子ども
1. よく食べ よく眠る子ども
2. 手伝いをすすんでする子ども
1. 元気に遊ぶ子ども
2. 日吉津の良さを自慢する子ども

U

学校
家庭
地域

1. 豊かな体験で育つ子ども
2. 友達や他者を思いやる子ども
1. 生活の知恵を身につける子ども
2. 家族の会話を大切にしている子ども
1. 自然に育まれる子ども
2. 日吉津を楽しむ子ども

G

- 学校
- ・国語・算数など基礎的学力の確実な定着をめざす
 - ・人権を基盤に据えた学級活動を通し、確かな仲間づくりをめざす
 - ・あらゆる機会を通じ、学習発表や意見発表の展開につとめる
 - ・早寝早起き運動を展開する
- 家庭
- ・「今日のがんばり」運動を展開する
- 地域
- ・社会のルールを身につけさせる活動を展開する
 - ・スポーツにチャレンジする活動を展開する
 - ・日吉津村の伝統、文化を知る活動を展開する

U

- 学校
- ・心を磨き耕す朝読書と自然体験・社会体験活動を展開する
 - ・様々な学年の交流をはじめ、高齢者・障害者と交流活動を展開する
 - ・ノーチャイルド活動により規律ある生活の展開を図る
 - ・ふるさとの自然や伝統文化にふれる体験活動を展開する
- 家庭
- ・自分の子どもをよく知る活動を展開する
- 地域
- ・日吉津村の行事に参加する運動を展開する
 - ・日吉津村の豊かな自然に学ぶ活動を展開する
 - ・地域ぐるみのあいさつ運動を展開する

具体的な活動

【具体的な活動とは】
「GUTS 日吉津っ子」を育むために学校・家庭・地域で行われているすべての活動のことです。

T

- 学校
- ・保護者や地域の方々と連携したあいさつ運動を推進する
 - ・芸術やスポーツ分野におけるマスター（一等賞）運動を推進する
 - ・企画・立案・運営まで手づくりの集会活動を展開する
- 家庭
- ・元氣にあさご飯運動を展開する
 - ・毎日お手伝い一っ運動を展開する
- 地域
- ・日吉津村の豊かな自然に学ぶ活動を展開する
 - ・スポーツや児童館が行う活動に参加する
 - ・リーダーを育む活動を展開する
 - ・世界に学ぶ活動を展開する

学社連携・学社融合推進事業

みんなで育てよう！
ガッツ☆ひえつこ

GUTS 日吉津っ子

子どもはみんなの宝物
家庭・学校・地域の力をあわせ
「GUTS 日吉津っ子」を育てることで
「一人ひとりの力をあわせ
「いそいそむら日吉津」を目指しましょう！



GUTS 日吉津っ子

Q&A

Q「GUTS 日吉津っ子」って何？
A みんなの宝物である子どもたちを育てるための、「自割す子どものイメージ」をわかりやすく表現しようとしてつくった言葉です。

Q どんなことを目指しているの？
A 家庭・学校・地域一帯となり「GUTS 日吉津っ子」育成の取り組みをすすめていきます。参加、協力などで関わっていただく皆さんにも、やりがい、役立ち感などを抱いてもらうことを目指しています。
「GUTS 日吉津っ子」を育てることで、村民みんながいそいそと暮らす村をつくらせます。

Q 具体的にどんなことをするの？
A まずは、「GUTS 日吉津っ子」の創始者である関係者で組織した「自割す子どもの育成委員会」を立ち上げます。そして、学校やPTA、公民館などの組織や団体と連携、実施するときは、自割す「GUTS 日吉津っ子」の姿を模範とし、お互いがもっている特徴を活かして、連携・協力していきます。

Q 今でもたくさん行事があるのに、これからもっとふえるの？
A 行事の数が増えるわけではありません。今までは、いろいろな行事に行っていた行事を「GUTS 日吉津っ子」を軸に、意識したり、他の組織との協力をすすめていかなければなりません。

Q どんなことをしたいの？
A まずは、「GUTS 日吉津っ子」について、このパンフレットを参考に家庭や学校、地域などで話し合ってみてください。次に、いそいそむら日吉津という「GUTS 日吉津っ子」育成委員会」に、子どもたちと一緒に参加、協力していきましょう。

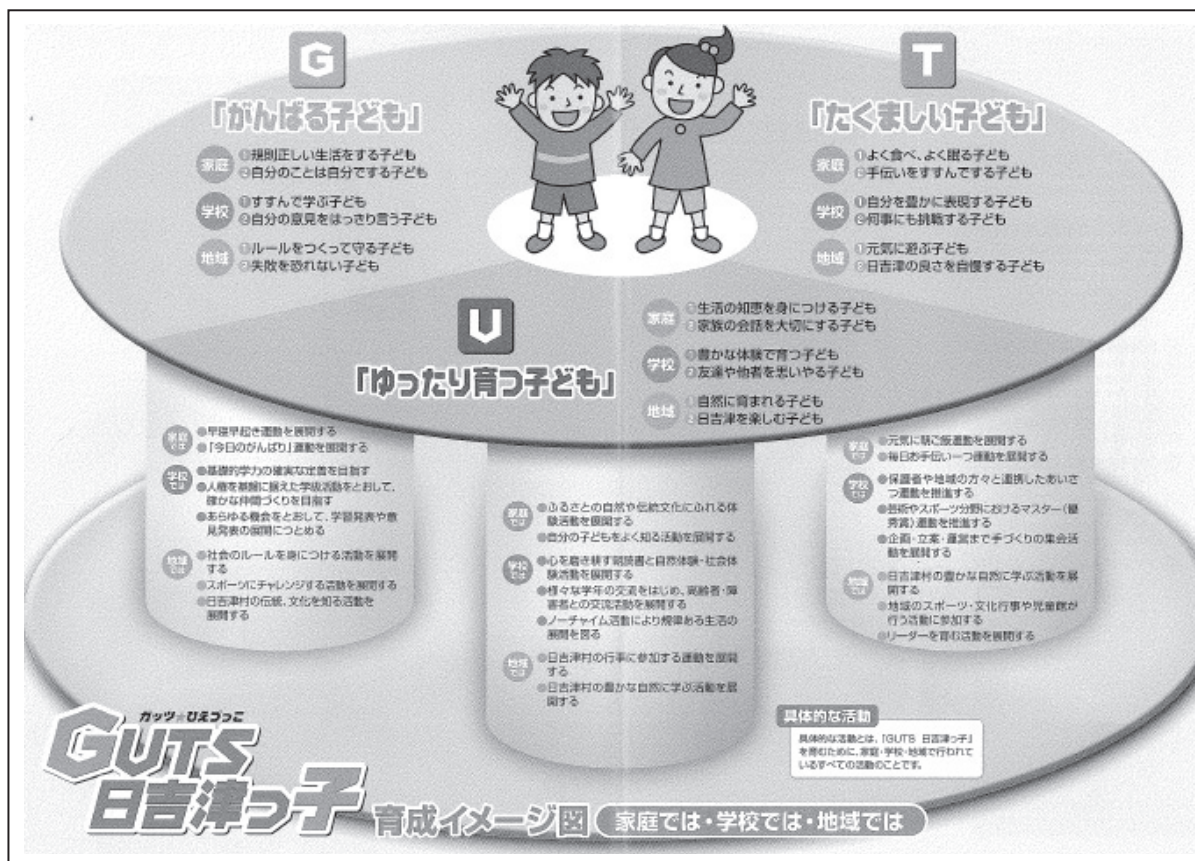
日吉津村民みんなで連携・協力し、子どもたち、そして村民みんなにとってよりよい暮らしを実現していきます。

みなさまのご意見、ご提案をお寄せください。

日吉津村学社連携推進事業研究会（日吉津村教育委員会）
事務局 日吉津村学社連携推進事務局 1F TEL0955-27-0211 FAX0955-27-0803
E-MAIL: info@wttw.jp

1200





GUTS 日吉津っ子

育成推奨事業

「GUTS 日吉津っ子」を育てるためには、家庭・学校・地域みんなが心あわせて、子育てに取り組むことが大切です。

子育てにかかわる人々が連携・融合し、工夫しながら、より楽しい取り組みにしていきたい。

●推奨事業①～⑧は、「GUTS 日吉津っ子」のイメージにより近づくために工夫を加えて企画されたモデル事業です。家庭・学校・地域を舞台に、みんなの参加や協力で、実現していきたいです。

【小学校】

ちびっ子お祭り探検隊

地域に昔からあるお祭りなどの行事に参観し、地域の方々と交流しながら、子どもが文化への理解を深め、利用に繋げる。日吉津を楽しむ子どもを育てます。

【中学校】

大豆を育てよう

(総合的な学習)

日吉津村の歴史・文化「大豆」の歴史・文化「大豆」を学ぶ。大豆の育て方を学び、大豆の楽しみを深め、地域とつながる。日吉津を楽しむ子どもを育てます。

【児童会】

みんなで協力子どもスポレク祭

(ミニ運動会)

子どもたちが、自分たちで企画・運営し、地域の人々と一緒に楽しむ。日吉津を楽しむ子どもを育てます。

【PTA】

日吉津小大レクリエーション祭

児童・保護者・教職員がクラス対抗で工夫を加えたゲームを楽しむ。各クラスによる運動会を開催。文化祭・お祭り・行事などを通して、元気に学校生活を送ります。

【町会協議会】

わくわく体験ボランティア

親子で学校を訪れ、児童館のある方々と交流しながら、ゲームを通じて交流し、地域に貢献し、学びあう。

【町会協議会】

Let's TBG

(ターゲット・バードゴルフ)

日吉津村の名産品であるターゲット・バードゴルフを通して、自然を楽しむ。地域の方々と交流し、ルールやマナーを身につけます。

【教育委員会】

いろんな人と何でもチャレンジ

(カルチャースクール)

地域の方々の指導のもと、日吉津村の歴史・文化・自然・伝統文化に触れる体験をした。高学年による低学年と、協力することの大切さを学びます。

【教育委員会】

いろんな人と何でもチャレンジ

(カルチャースクール)

地域の方々の指導のもと、日吉津村の歴史・文化・自然・伝統文化に触れる体験をした。高学年による低学年と、協力することの大切さを学びます。

豊かな子育て村日吉津宣言

私たち日吉津村民は、未来を担う子どもたちを、村の宝物、誇りとし、ふるさとの自然と大地とともに「骨太の人格」に育てることを誓い、ここに「GUTS（ガッツ）日吉津っ子」を宣言します。

「GUTS（ガッツ）日吉津っ子」宣言

私たちは、日吉津に育つ子どもたちを、ガッツにあふれ、たくましい心と体を持ち、伸びやかで、やさしさにあふれる人格に育てることをめざし、家庭・学校・地域が協働する子育て共同体を創造するため、「GUTS（ガッツ）日吉津っ子」の育成を宣言します。

G 「がんばる子ども」

…何にでもチャレンジし、目標に向かってがんばる子ども

U 「ゆったり育つ子ども」

…ゆったりした心を持ち、伸びやかに育つ子ども

T 「たくましい子ども」

…困難にくじけず、たくましく生きる子ども

平成19年2月12日

第14回日吉津村生涯学習むらづくり推進大会

2007年(平成19年)2月14日 水曜日

日本経済新聞

生涯学習むらづくり推進大会で発表

村づくりは 子育てから

GUTS 頑張る
地域あげて「ゆったり育つ 日吉津っ子宣言」
たくましい

日吉津村日吉津の中央公民館で十二日、村民約六十人が参加して「第十四回日吉津村生涯学習むらづくり推進大会」が開催された。大会宣言として「頑張る」の「G」「ゆったり育つ」の「U」「たくましい」の「T」を合わせた「GUTS」をテーマにした「子育て宣言」が発表され、立派な世代を超えて力を合わせ、子育てに取組むことを誓った。

同村では二〇〇四年、町教委の学社連携・学社連携推進事業として村内に研究会を設立させ、独自の子育てプログラム作成を進めてきた「GUTS日吉津っ子宣言」は、三年間にわたる取り組みの成果をまとめたもので、家庭、学校、地域が協働して子どもたちを「偉太の人格」に育てることを目指す。

大会では、村内の教育関係者や保護者によるパネルディスカッションのほか、研究会のアドバイザーを務めた高根大学教育学部の高岡信也学部長が講演した。



協働の子育てを目指して「GUTS日吉津っ子宣言」を発表する関係者

高岡学部長は「子育ては人づくり。人を育てるとは二十、四十年後の村の活力につながる」と、村づくりを志す上で子育ての視点が重要であることを強調し、地域の教育力の低下など、子どもを取り巻く環境が変化している現状を踏まえ「家庭、学校、地域が協力して子どもを育てる」という意識と行動を、あらためて徹底しなければいけない」と、新たな「子育て共同」の構築を呼び掛けた。

アンケートのお願い

日吉津小学校保護者 各位

現在、日吉津村では、子どもたちの健やかな育ちを実現するため、「GUTS（ガッツ）日吉津っ子育てプラン」の策定を計画しています。このアンケートは、子どもたちの日常生活、家庭におけるしつけや教育の現状を把握するため、すべての小学生をお持ちの家庭を対象に実施するものです。あなたの回答やアンケートで得られたデータ等は、本調査の集計の目的以外に使用することはありません。子どもさんの日常生活についてお答えいただき、今後の施策の参考とさせていただきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、本調査は、島根大学教育学部社会教育研究室（高岡教授）の学生の皆さんの協力を得て実施するものです。

ご記入いただきましたアンケートは、封筒に入れて12月20日（水）までに各担任の先生に提出してください。

日吉津村教育委員会
日吉津小学校
鳥取県教育委員会西部教育局

☆1 あなたのお子様の

学年は () 年生
性別は (男 ・ 女) (○を付けて下さい)

以下の質問には、当てはまる箇所を1つだけ選んで○をつけて下さい。子どもさんが二人以上いらっしゃるご家庭では、それぞれ記入してください。

☆2 お子様のご家庭でのご様子についておうかがいします。

(1) 平日（学校のある日）の朝は何時ごろ起きますか？（最も多い時間に○を付けて下さい）

5:00	5:30	6:00	6:30	7:00	7:30	8:00	8:30

(2) 平日（翌日、学校のある日）の夜は何時頃就寝しますか？（最も多い時間に○を付けて下さい）

9:00まで	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:00以後

☆3 毎日の食事や暮らしについて、あなたのお子さんは次のようなことについてどれくらいありますか。また、できていますか。

	よくある	時々ある	あまりない	全くない
1) 朝食を取らないで学校へ行く	1	2	3	4
2) 夕食を一人で食べる	1	2	3	4
3) 好きなものだけ食べて嫌いなものは残す	1	2	3	4
4) スーパーやコンビニの弁当を食べさせる	1	2	3	4
5) 家族とのあいさつ	1	2	3	4
6) 親と学校や勉強の話をする	1	2	3	4
7) 親と友達のことについて話をする	1	2	3	4
8) 家の手伝いをする	1	2	3	4
9) 時間や約束をきちんと守る	1	2	3	4
10) 身の回りのことを自分でする	1	2	3	4

（裏面に続く）

☆4 子どもの勉強や教育のことについて、次のようなことを感じるがありますか。

	よく思う	時々思う	あまり思わない	全く思わない
1) 勉強や成績について不安がある	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
2) もう少し宿題を出してほしい	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
3) 勉強よりも元気に過ごすことが大切だ	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
4) 家庭での勉強が足りない	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
5) 宿題はちゃんとやっている	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
6) 子どもは地域の人に世話になっている	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
7) 担任の先生はじめ、学校と家庭の 連絡は緊密だ	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____

☆5 ふだんのお子さんのくらしの様子についてお尋ねします。

1) あなたのお子さんの一日の家庭での学習時間はどれくらいですか。

平 日 (時間 分 くらい)
休 日 (時間 分 くらい)

2) あなたのお子さんは一日に、テレビをどれくらいの時間見ていますか。またテレビゲームなどをどれくらいしていますか。

テレビを 平 日 (時間 分 くらい)
休 日 (時間 分 くらい) 見ている
いずれもよくわからない方は、ここ () に○をしてください
ゲームを 平 日 (時間 分 くらい)
休 日 (時間 分 くらい) している
いずれもよくわからない方は、ここ () に○をしてください

3) あなたのお子さんは1ヶ月にどのくらい本を読んでいますか。(マンガは除きます)

1. 1冊も読まない () 2. 1冊以上～5冊未満 () 3. 5冊以上～10冊未満 ()
4. 10冊以上 () 5. よくわからない ()

4) あなたのお子さんは家電製品を使わないときは電源を切ったり、コンセントを抜いたりして節電することが出来ていますか。

1. いつも出来ている () 2. だいたい出来ている () 3. たまに取り組んでいる ()
4. ほとんど出来ていない ()

5) あなたのご家庭では、親子で「環境問題」について話す機会がありますか。(例えば、エネルギーやゴミの問題、リサイクル、リユース、環境にやさしいくらしの意味等)

1. よく話す () 2. ととき話す () 3. あまり話さない ()
4. 話したことがない ()

☆☆☆ 質問は以上です。ご協力ありがとうございました ☆☆☆

日吉津村学社連携推進事業研究会

代表者 長谷岡重信

松本靖史・河合鎮徳・細谷博高（日吉津小学校）
前田 昇・中原 哲（小学校PTA）
中原敏子（社会福祉協議会）
上場牧子（児童館）
上野秀雄（青少年育成推進指導委員）
長谷川るみ子（中央公民館）
佐藤義和・伊田典穂・鷺見寛幸・入江妙子（西部教育局）
長谷川貞子・遠藤 量・坂本紀美子
長谷岡重信・橋岡和久・小原義人（教育委員会）

○スーパーバイザー

島根大学教育学部長 高岡信也 教授

平成 16・17 年度 研究に携わった方

鷺見寛幸（日吉津小学校）
後藤嘉樹（小学校PTA）
伊達洋子（社会福祉協議会）
高田万里子（児童館）
浜辺サダ子（中央公民館）
廣芳洋一・野口高幸（西部教育局）

編集委員

細谷博高
前田 昇
長谷川るみ子
鷺見寛幸
入江妙子
坂本紀美子
小原義人

「学社連携・学社融合推進事業」 報告書

発行 平成 19 年 3 月
編集 日吉津村学社連携推進事業研究会
（日吉津村教育委員会内）
〒 689 - 3553
鳥取県西伯郡日吉津村日吉津 872-15
TEL 0859-27-0211
FAX 0859-27-0903



ガッツ★ひえぶっこ
GUTS
 日吉津っ子

